

京都大学生態学研究センター
業績目録

Publication List
Center for Ecological Research, Kyoto University

第10巻（2000年）
2001（平成13）年 3月

Volume 10（2000）
March , 2001

京都大学

生態学研究センター・ニュース No. 71

京都大学生態学研究センター	Center for Ecological Research,
〒520-2113 滋賀県大津市	Kyoto University
上田上平野町字大塚509-3	Kamitanakami Hiranocho,
Tel : (077) 549-8200 (代表)	Otsu, Shiga, 520-2113, Japan
Fax : (077) 549-8201	
センター長 中西正己	Home page: http://ecology.kyoto-u.ac.jp

はじめに

全国共同利用研究施設として1991年4月12日に設立された生態学研究センターは、この3月31日に10年の時限到来で廃止され、4月より新たに「生態学研究センター」が発足します。

業績目録も早いもので第10巻の出版を迎えました。第1巻から第5巻まではセンタースタッフの業績に対する多様な考え方が反映されて、原著論文と雑誌・新聞執筆稿などが混在した目録から原著論文のみのものまであり、個性豊かで面白く感じました。第6巻からは「原著」、「著書」、「その他」と分けて掲載されるようになりましたが、これは単に業績を人為的に区別したに過ぎず、スタッフの研究成果に対する捉え方の多様性には、変化は見られません。生態学研究センターの使命は研究成果を基盤にした社会的還元でなければならないという立場に立つと、原著論文があつての「著書」「雑文」という気もしいではありません。センターの業績目録は多様な世界であったとしても、スタッフの原著論文に着目してみますと、第2巻では約20篇が第9巻では約70篇と年々その数が増えています。生態学研究センターは、この10年間紆余曲折はあつたものの社会的貢献も含めて着実に実績を挙げてきたことは事実です。しかし、ある外部評価委員が指摘しているように、この10年間の研究は同じ分野の研究グループ内での成果の世界でありましたが、新しい「生態学研究センター」では異なる研究グループ間の学際的共同研究を通しての共著論文の誕生へと進展していく必要があります。新センターの研究方針はプロジェクト研究を柱に据えております。センターは学部や研究科と同じことをやっています。古典的な生態学にとどまらない新しい生態科学をめざし、学際的な原著論文がここ数年で出てくることを期待します。

2001年3月

京都大学生態学研究センター長 中西 正己

目次

活動報告	1
共同研究	5
著作リストの収録内容と凡例	9
A. Staffs スタッフ	10
B. Research Students and Fellows 大学院生・研修員	26
C. Guest Scientists 協力研究員	28
IMAI, Ichiro 今井一郎	
INUBUSHI, Kazuyuki 犬伏和之	
ITINO, Takao 市野隆雄	
ITIOKA, Takao 市岡孝朗	
KAMEDA, Kayoko 亀田佳代子	
KANEKO, Nobuhiro 金子信博	
KAWANABE, Hiroya 川那部浩哉	
KOGA, Tsunenori 古賀庸憲	
KOHYAMA, Takashi 甲山隆司	
KUROIWA, Sumio 黒岩澄雄	
MINOURA, Koji 箕浦幸治	
MORINO, Hiroshi 森野 浩	
NAGAMITSU, Teruyoshi 永光輝義	
NAKAGOSHI, Nobukazu 中越信和	
NISHIMURA, Noboru 西村 登	
OHTAKA, Akifumi 大高明史	
OKUDA, Noboru 奥田 昇	
ÔTAKE, Akio 大竹昭郎	
SAKAMOTO, Kazunori 坂本一憲	
SAKIO, Hitoshi 崎尾 均	
SAKURAI, Katsutoshi 櫻井克年	
SUGIYAMA Yukimaru 杉山幸丸	
TADAKI, Yoshiya 只木良也	
UEDA, Keisuke 上田恵介	
WATANABE, Mamoru 渡辺 守	
WATANABE, Naoshi, C. 渡辺 直	
YOSHIOKA, Takahito 吉岡崇仁	
生態研セミナー	44
調査船「はす」運航表	48

生態学研究センターでは、2000年度に次のような共同利用事業およびセンター運営の活動を行いました（括弧内は当該報告が掲載されているセンターニュース）。

1．共同研究

2000年度にセンターが行った共同研究は36件であった。文部省科学研究費創生的基礎研究「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」（代表者：川那部浩哉）、IGBP（地球圏 - 生命圏国際共同研究計画）の一環として文部省国際共同研究等経費（代表者：和田英太郎）、日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「地球環境情報収集の方法の確立 - 総合調査マニュアルの作成に向けて -」（代表者：和田英太郎）、科学技術振興事業団戦略的基礎研究「熱帯林の林冠における生態圏 - 気圏相互作用のメカニズムの解明」（代表者：中静 透）のプロジェクトが前年に引き続いて行われた。そのほか、文部省科学研究費特定領域3件、国際学術研究5件、文部省科学研究費基盤研究（A）6件、文部省科学研究費基盤研究（B）4件などであった（本号5ページ）。

2．協力研究員

センターとしての研究活動をより推進するために、学内外の研究者に協力研究員を委嘱している（任期2年間）。現在79名が任命されている（センターニュースNo. 66にリスト、No. 67、No. 70に追加リスト）。

3．公募研究会など公募事業

センターでは2000年度に4件の公募研究会と1件の公募実習を行った。

公募研究会：

1) 「溪畔・河畔林の再生をめざして」

代表者：鎌田磨人（徳島大・工） 実施期日（場所）：2000年6月3日 - 4日（徳島県文化の森総合公園） 参加者：191名（センターニュースNo. 68）

2) 「生態学におけるGIS（地理情報システム）の応用」

代表者：田中和博（京都府大・農） 実施期日（場所）：2000年6月13日（京都市国際交流会館） 参加者：138名（センターニュースNo. 67）

3) 「林床から森林動態を考えるPart Ⅰ」

代表者：蒔田明史（秋田県大・生物資源） 実施期日（場所）：2000年12月1日 - 2日（楽友会館） 参加者：96名（センターニュースNo. 70）

4) 「海洋沿岸域の環境変動とクラゲ類の大量発生に関する研究集会」

代表者：上 真一（広島大・生物生産） 実施期日（場所）：2000年10月28日 - 30日
（琵琶湖研究所） 参加者：72名（センターニュースNo. 69）

公募実習：

「河川生態系の環境構造と生物群集に関する基礎実習」

代表者：中西正己（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2000年7月20日 - 28日
（京都大学理学部木曾生物学研究所） 受講者：8名（センターニュースNo. 67）

その他：

「屋久島フィールドワーク講座」

世話人：湯本貴和（京大・生態研センター） 野間直彦（滋賀県立大・環境科学）
実施期日（場所）：2000年8月2日 - 10日（屋久島） 主催：上屋久町、共催：屋久町、
屋久島環境文化財団、京都大学生態学研究センター、京都大学霊長類研究所、講
師：6名、受講者：18名（センターニュースNo. 67）

4 . 国際シンポジウム

2000年度には、3件の国際ワークショップを行った。

1) 日英米ワークショップ「生物多様性と生態複合」

世話人：Chareles Godfray (Center for Population Biology, Imperial College)、実施期日
（場所）：2000年5月24日 - 27日（Center for Population Biology, Imperial College） 参
加人数：35名（センターニュースNo. 66）

2) 西太平洋アジア生物多様性ワークショップ「国際生物多様性観測年のための方法論 の確立」

世話人：湯本貴和（京大・生態研センター） 松原健司（淑徳大学） 実施期日（場
所）：2000年11月16日 - 17日（瀬田アーバンホテル） 参加人数：120名（センター
ニュースNo. 69）

3) 国際シンポジウム「地球環境攪乱下における空間構造と食物網ダイナミクス」

世話人：川端善一郎（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2000年12月8
日 - 11日（京大会館） 参加人数：60名（センターニュースNo. 70）

5 . 公開シンポジウム

新プロワークショップ「生物多様性の価値」

実施期日（場所）：2000年9月29日（瀬田アーバンホテル） 参加延べ人数：25名
（センターニュースNo. 69）

6．生態研セミナー

このセミナーは生態学研究センターの共通セミナーとして定期的開催。2000年度には16回（オーガナイザー：遊磨正秀）開催した。毎月1回（原則として第3金曜日）毎回2名に1時間ずつ（発表50分、議論10分）話題を提供していただいた。会場はセンター分室移転前までは主として京都大学理学部2号館で、その後は、生態学研究センター（大津）で行った。センター内から17名、海外からは5名の講演者があった。参加人数は各回30から70名、延べ1000名であった（本号44ページ）。

7．ニュースレターの発行

センターの活動を全国の生態学に興味を持たれている方々に知っていただくため、隔月にニュースレターを発行した。2000年度は第64号（業績目録、4月）第65号（4月20日）第66号（6月20日）第67号（8月20日）第68号（10月20日）第69号（12月20日）第70号（2月20日）を発行した。現在、個人802件、機関342件、計1144件に送付されている。ニュースレターでは、生態学研究センターの活動のみならず、広く生態学一般の情報を提供している。

8．共同利用施設の充実

(1) 大型機器分析：安定同位体比精密測定用分析システムは、元素分析計を備えた有機物中の炭素窒素同位体比の自動分析装置（コンフロ）、水の酸素水素自動分析装置、およびキャピラリーガスクロと燃焼装置を備えたGCCMSが稼働している。2000年の実際の稼働日数は、コンフロが174日、水分析とGCCMSおよびディアルインレットによる炭素と水素の測定をあわせて242日であった。利用者のべ人数は、コンフロが262人、水分析とGCCMSが251人であった。

DNA解析システムはDNAシーケンサー、微量タンパク質分析装置、プロテインシーケンサー、アミノ酸アナライザーなどから構成されている。遺伝子DNAの塩基のシーケンスを解析することにより、分子系統研究や、酵素などの機能性タンパク質の推定アミノ酸配列の比較による分子進化研究が展開できる。2000年度における、このDNA解析システムの延べ利用人数は約150人、延べ利用時間は約2000時間であった。センターの研究者以外に名古屋大学、京都大学大学院農学研究科などからの共同利用があった。

(2) 生態情報アクセスシステム：京都大学生態学研究センター内に敷設されたLANを利用してイントラネットを構築しており、156台の端末が接続されている。さらに、これを京都大学学術情報ネットワーク機構を通じてインターネットに接続し、ホームページで生態学研究センターニュース、セミナー案内、センター関連プロジェクト紹介、学会へのアクセスなどの情報提供を行っている(<http://ecology.kyoto-u.ac.jp/>)。

現在、京都大学、神戸大学内海域機能教育研究センターなどの公的機関の他、Yahoo Japan などの民間の検索サイトからのリンクも受けている。

- (3) 船の利用：平成10年3月にセンターの新造高速観測調査船「はす」が竣工した。全長12.5m、耐食アルミニウム合金製で最大航行速度20ノット、主な観測航海機器として、DGPS・レーダー・魚群探知機・真風向風速計・流向流速計・ジャイロコンパス・デジタル水温計・航法インターフェイス・採水ウインチ・アーマードケーブルウインチを装備している。「はす」は、センターの調査・観測だけではなく、琵琶湖で調査や実習をされる方々にも共同利用されている。2000年度の共同利用は、観測調査16件（延べ86名）であった。このほかセンターが実施している毎月の定期観測（12件12日）の同乗者やセンター教官との共同研究による利用もあった（延べ運行日数104日、延べ乗船者数504名）。

9. 協議員会・運営委員会の開催

2000年

- 4月25日 協議員会（第35回）（議題：センター長候補の選考）（センターニュースNo. 66）
7月18日 運営委員会（第26回）（議題：教官人事、専門委員会委員の選出）（センターニュースNo. 67）
7月18日 協議員会（第36回）（議題：教官人事）（センターニュースNo. 67）

2001年

- 1月22日 運営委員会（第27回）（議題：概算要求、教官人事、センター改組）（センターニュースNo. 70）
1月29日 協議員会（第37回）（議題：概算要求、教官人事、センター改組）（センターニュースNo. 70）
3月 7日 運営委員会（第28回）（議題：教官人事）（書面による）
3月12日 協議員会（第38回）（議題：概算要求、教官人事、センター改組）

共同研究

2000年度の文部省科学研究費などによるセンタースタッフが関係した共同研究をまとめました。研究者は代表者を筆頭とし、センタースタッフは斜体文字で示し、センタースタッフ以外の研究分担者については省略してあります。

川那部浩哉（琵琶湖博物館）・安部・和田・東・中西・中静・菊沢・山村・川端・清水・大串・杉本・藤田ほか

「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」

1997-2001 文部省科学研究費創生的基礎研究

塚本勝巳（東大・海洋研）・永田ほか

「海洋生命系のダイナミクス」

2000 文部省科学研究費創生的基礎研究

和田・東・菊沢・占部・杉本ほか

「陸域生態系の地球環境変化に対する応答の研究総括班」

1999-2001 文部省科学研究費特定領域（B1）

占部ほか

「湖沼生物群集に及ぼす陸上起源物質の影響に関する研究」

1999-2001 文部省科学研究費特定領域研究（B2）

杉本ほか

「湖沼におけるガス交換」

1999-2001 文部省科学研究費特定領域研究（B2）

永田ほか

「水圏環境における複合有機コロイド系の生物複雑性に関する日米共同研究」

2000-2001 文部省科学研究費特別研究促進費

山村・中西・和田・東・川端・占部ほか

「21世紀の環境構造変化に対応できる「琵琶湖標準モデル」の開発」

1998-2000 文部省科学研究費基盤研究（A1）

横山俊夫（京大・人文研）・遊磨ほか

「前近代久米島文化の復元 - 未公開の家文書群の学際的実施検証をふまえた解読による - 」

1999-2001 文部省科学研究費基盤研究（A1）

和田・清水ほか

「温暖化と地球環境攪乱が生物多様性、生態系サービスそして人間社会に及ぼす複合効果：マルチスケールアプローチ」

2000-2002 文部省科学研究費基盤研究(A1)

菊沢・藤田ほか

「常緑性・落葉性とその地理分布におよぼす樹木の葉のフェノロジーに関する研究」

2000-2002 文部省科学研究費基盤研究(A1)

中静ほか

「林冠動態を基礎とした森林生態系機能の広域把握技術」

1998-2000 文部省科学研究費基盤研究(A1展開)

菊沢・北山・湯本ほか

「熱帯山地における森林の葉の回転速度に関する研究」

1999-2001 文部省科学研究費基盤研究(A2)

杉本ほか

「水循環のための水の安定同位体比サンプリング解析システムの開発」

1999-2001 文部省科学研究費基盤研究(B1展開)

大串ほか

「生物多様性のキーストン：間接的な生物間相互作用」

1998-2000 文部省科学研究費基盤研究(B2)

鈴木聡(高知大)・川端ほか

「宇和海の魚介類・環境中におけるマリンビルナウイルスの動態」

1999-2000 文部省科学研究費基盤研究(B2)

占部ほか

「ミジンコ休眠卵を用いた琵琶湖生物群集の近過去復元に関する研究」

2000-2003 文部省科学研究費基盤研究(B2)

菊沢・中静・杉本

「森林樹木の葉の回転速度に関する研究」

1998-2000 文部省科学研究費萌芽的研究

占部ほか

「湖沼における深水層生物学ことはじめ」

1999-2000 文部省科学研究費萌芽的研究

永田ほか

「海洋における微生物群集の動態を計測する新手法の開発」

1999-2000 文部省科学研究費萌芽的研究

清水・湯本ほか

「熱帯雨林保全のための生物多様性インベントリーシステムの確立」

1998-2000 文部省科学研究費国際学研究（基盤A2）

市岡孝朗（名大・農）・大串ほか

「東南アジアにおけるオオバギ属植物とアリの共生系」

1998-2000 文部省科学研究費国際学研究（基盤A2）

岡田典弘（東工大・生命理工）・遊磨ほか

「散在型反復配列を指標にしたアフリカ産カワスズメ科魚類の系統進化の研究」

1998-2000 文部省科学研究費国際学研究（基盤A2）

和田・藤田ほか

「モンゴル - セレンゲ河 - バイカル湖水系の陸域生態系の地球環境変化に対する応答」

2000-2002 文部省科学研究費国際学研究（基盤B2）

永田ほか

「海洋における溶存有機炭素の循環を支配する新しいメカニズム」

1999-2000 文部省科学研究費国際学研究（基盤B2）

和田・中西・東・遊磨ほか

「地球環境情報収集の方法の確立 - 総合調査マニュアルの作成に向けて - 」

1997-2001 日本学術振興会未来開拓学研究推進事業

東・安部・川端ほか

「生物多様性と生態複合の関係」

1997-2000 日本学術振興会重点研究国際協力事業

占部ほか

「湖沼生態系の安定性と生物群集に及ぼす光 - 栄養塩の共役効果」

1998-2000 JSPS-NSF 日米科学協力事業

吉田尚弘（東京工業大学）・和田ほか

「アイソトポマーの計測による環境物質の起源推定」

1996-2000 科学技術振興事業団戦略的基礎研究

中静ほか

「熱帯林の林冠における生態圏 - 気圏相互作用のメカニズムの解明」

1998-2002 科学技術振興事業団戦略的基礎研究

杉本ほか

「水の安定同位体解析による広域水循環過程の解析」

2000 海洋科学技術センター地球観測フロンティア研究システム共同研究

遊磨ほか

「マラウイ湖生態総合研究」

1998-2001 国際協力事業団研究協力

中静・湯本ほか

「西太平洋アジアの森林生物多様性の広域的把握と生態機能に関するネットワーク研究」

2000-2001 住友財団研究助成

上田哲行（石川農大）・遊磨ほか

「日本人はトンボをどのように見てきたか - 日本人の自然観の実証的研究」

1999-2001 日産科学振興財団研究助成

嘉田由紀子（琵琶湖博物館）・遊磨ほか

「河川・湖沼と女性の生活的かかわりに関する国際比較研究」

2000 河川整備基金助成事業

中静ほか

「世界遺産白神山地のブナ林の保全と管理・修復に関する研究」

2000-2001 日産科学振興財団研究助成

中静ほか

「大型猛禽類および餌動物のハビタットとしての植生解析」

1999-2001 ダム水源地整備センター助成事業

著作リストの収録内容と凡例

1. 第10巻著作リストには生態学研究センターの構成員（スタッフ，大学院生および研修員）および協力研究員が，2000（平成12）年（「年度」ではない）に発表した著作を収録します．印刷中のものも，発表年が2001年以降になるものは収録しません．
2. 配列は，(A) スタッフ, (B) 大学院生および研修員, (C) 協力研究員のそれぞれについて，名前のアルファベット順です．協力研究員については，元センター長を除いて，各巻ごとに1)からはじまるナンバーをふります．スタッフと大学院生については，著作の種別（「原著論文」, 「著書」, 「その他」）ごとに示しています．「著書」は，単著か編著のいずれかに限り，分担執筆は内容によって「原著論文」か「その他」に区分してあります．
3. 協力研究員については，著作リストに載せる・載せないは，各研究員の自由意志とし，「載せてもよい」と判断された方の，そして判断された著作だけを収録しています．ご協力ありがとうございました．
4. 印刷の形式は欧文・和文にかかわらず以下の3通りとしました：
 - (a) 定期刊行学術誌掲載の論文など
ナンバー) 著者名{; 著者名, ...} (刊行年) 論文タイトル. 定期刊行物名 巻: 始ページ-終ページ. [キーワード]
 - (b) 単行本（含翻訳）など
ナンバー) 著者名{; 著者名, ...} (刊行年) 著書タイトル. 総ページ pp. 出版社, 所在地. [キーワード]
 - (c) 単行本のなかに掲載の論文など
ナンバー) 著者名{; 著者名, ...} (刊行年) 論文タイトル. In: 単行本名. (ed. by 編者名{; ...}) pp. 始ページ-終ページ. 出版社, 所在地. [キーワード]

A. Staffs スタッフ

原著論文

ABE, Takuya 安部琢哉 † _____

Hyodo, F.; Inoue, T., Azuma, J.-I., Tayasu, I. and Abe, T. (2000) Role of the mutualistic fungus in lignin degradation in the fungus-growing termite *Macrotermes gilvus* (Isoptera; Macrotermitinae). *Soil Biology & Biochemistry* 32(5): 653-658.

安部琢哉 (2000) 生物多様性と生態系特性 - 植物のまとう衣に注目して - . JCAS連携研究成果報告 3: 7-28.

DOI, Atsushi 土井 敦 _____

Doi, A. & Shinzawa, H. (2000) *Tribolodon nakamurai*, a new cyprinid fish from the middle part of Honshu Island, Japan. *Raffles Bull. Zool.* 48: 233-240.

Doi, A. (2000) *Parasqualidus maii*, a new genus and species of cyprinid fish from the central Viet Nam. *Raffles Bull. Zool.* 48: 241-247.

Doi, A. (2000) *Parasikukia maculatus*, a new genus and species of cyprinid fish from the peninsular Thailand. *Species Diversity* 5: 391-396.

Doi, A.; Komatsu, R. & D. I. Hartoto (2000) Fish occurring in a black water lake in South Borneo. *Rep. Suwa Hydrobiol.* 12: 25-28.

HIGASHI, Masahiko 東 正彦 † _____

Kondoh, M. and Higashi, M. (2000) Reproductive isolation mechanism resulting from resolution of intragenomic conflict. *The American Naturalist* 156: 511-518.

Takimoto, G.; Higashi, M. and Yamamura, N. (2000) A deterministic genetic model for sympatric speciation by sexual selection. *Evolution* 54(6): 1870-1881.

KAWABATA, Zen'ichiro 川端善一郎 _____

Tomaru, Y., Kawabata, Z. & Nakano, S. (2000) Consumption of picoplankton by the bivalve larvae of Japanese pearl oyster *Pinctada fucata martensii*. *Marine Ecology Progress Series* 192: 195-202.

Nakano, S. & Kawabata, Z. (2000) Changes in cell volume of bacteria and heterotrophic

- nanoflagellates in a hypereutrophic pond. *Hydrobiologia* 428: 197-203.
- Matsui, K., Kono, S., Saeki, A., Ishii, N., Min, M-G. & Kawabata, Z. (2000) Direct and indirect interaction for coexisting in a species defined microcosm. *Hydrobiologia* 435: 109-116.
- Shikano, S. & Kawabata, Z. (2000) Effect at ecosystem level of elevated atmospheric CO₂ in an aquatic microcosm. *Hydrobiologia* 436: 209-216.
- Manage, M. P., Kawabata, Z. & Nakano, S. (2000) Algicidal effect of the bacterium *Alcaligenes denitrificans* on *Microcystis* spp. *Aquatic Microbial Ecology* 22(2): 111-133.
- 西村文武; 赤瀬孝也, 川端善一郎 (2000) 人工酸性雨を用いた柑橘類樹園地土壌溶出水の水質特性とその湖沼微生物の増殖に及ぼす影響. *水環境学会誌* 23(8): 510-515.
- Fuma, S., Takeda, H., Miyamoto, K., Yanagisawa, K., Inoue, Y., Ishii, N., Sugai, K., Ishii, C. & Kawabata, Z. (2000) A simple aquatic microcosm for ecotoxicity screening at the community level. *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology* 66: 699-706.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎_____

- Kobayashi, Y. & Kikuzawa, K. (2000) A single theory explains two empirical laws applicable to plant populations. *Journal of Theoretical Biology* 205: 253-260.
- Umeki, K. & Kikuzawa, K. (2000) Patterns in individual growth, branch population dynamics, and growth and mortality of first-order branches of *Betula platyphylla* in northern Japan. *Annals of Forest Science* 57: 587-598.
- Ito, E. & Kikuzawa, K. (2000) Differentiation of the timing of flower abortion in *Tilia japonica*. *Plant Species Biology* 15: 179-186.

KITAYAMA, Kanehiro 北山兼弘_____

- Kitayama, K.; Majalap-Lee, N. & Aiba, S. (2000) Soil phosphorus fractionation and phosphorus-use efficiency of tropical rainforests on Mt. Kinabalu, Borneo. *Oecologia* 123: 342-349.

KOHZU, Ayato 高津文人_____

- Kohzu, A.; Tateishi, T., Yamada, A., Koba, K. and Wada, E. (2000) Nitrogen isotope fractionation during nitrogen transport from ectomycorrhizal fungi, *Suillus granulatus*, to the host plant, *Pinus densiflora*. *Soil Science and Plant Nutrition* 46(3): 733-739.

MURAKAMI, Takahiro 村上貴弘

Murakami, T.; Higashi, S. and D. Windsor (2000) Mating frequency, colony size, polyethism and sex ratio in fungus-growing ants (Attini). *Behavioral Ecology and Sociobiology* 48: 276-284.

Murakami, T.; L. Wang, and Higashi, S. (2000) Mating frequency, genetic structure, and sex ratio in the intermorphous female producing ant species *Myrmecina nipponica*. *Ecological Entomology* 25: 341-347.

NAGATA, Toshi 永田 俊

Nagata, T.; Fukuda, H., Fukuda, R. and Koike, I. (2000) Bacterioplankton distribution and production in deep Pacific waters: Large-scale geographic variations and possible coupling with sinking particle fluxes. *Limnology and Oceanography* 45: 426-435.

Fukuda, R.; Sohrin, Y., Saotome, N., Fukuda, H., Nagata, T. and Koike, I. (2000) East-west gradient in ectoenzyme activities in the subarctic Pacific: Possible regulation by zinc. *Limnology and Oceanography* 45: 930-939.

NAKANISHI, Masami 中西正己

Genkai-Kato, M.; Nozaki, K., Mitsuhashi, H., Kohmatsu, Y., Miyasaka, H. and Nakanishi, M. (2000) Push-up response of stonefly larvae in low-oxygen conditions. *Ecological Research* 15: 175-179.

Urabe, J.; Gurung, T. B., Yoshida, T., Sekino, T., Nakanishi, M., Maruo, M. and Nakayama, E. (2000) Diel changes in phagotrophy by *Cryptomonas* in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 45: 1558-1563.

Gurung, T. B.; Nakanishi, M. and Urabe, J. (2000) Seasonal and vertical difference in negative and positive effects of grazers on heterotrophic bacteria in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 45: 1689-1696.

NAKANO, Shigeru 中野 繁十

Taniguchi, Y. and Nakano, S. (2000) Condition-specific competition: implications for the altitudinal distribution of stream fishes. *Ecology* 81: 2027-2039.

Taniguchi, Y.; Miyake, Y., Saito, T., Urabe, H. and Nakano, S. (2000) Redd superimposition by introduced rainbow trout on native charrs in a Japanese stream. *Ichthyological Research* 47(2): 149-156.

Kuhara, N.; Nakano, S. and Miyasaka, H. (2000) Flow mediates the competitive influence of a

- grazing caddisfly on mayflies. *Ecological Research* 15: 145-152.
- Murakami, M. and Nakano, S. (2000) Species-specific bird functions in a forest-canopy food web. *The Proceeding of the Royal Society of London (B)* 267: 1597-1601.
- Nakano, S. and Murakami, M. (2000) Dynamic interdependence between terrestrial and aquatic food webs maintained by across-habitat prey flux. *Proceeding of the National Academy of Science of the United States of America*.
- 谷口義則; 中野 繁 (2000) 地球温暖化と局所的環境攪乱が淡水魚類群集に及ぼす複合的影響. *陸水学雑誌* 61: 79-94.

NAKASHIZUKA, Tohru 中静 透

- Nakagawa, M.; Tanaka, K., Nakashizuka, T., Ohkubo, T., Kato, T., Maeda, T., Sato, M., Miguchi, H., Nagamasu, H., Ogino, K., Teo, S., Hamid, A. A. & Lee, H. (2000) Impact of severe drought associated with the 1997-1998 El Nino in a tropical forest in Sarawak. *Journal of Tropical Ecology* 16: 355-367.
- 中静 透; 井崎淳平, 松井淳, 長池卓男 (2000) 「あがりこ」ブナ林の成因について. *日本林学会誌* 82: 171-178.

SEKINO, Tatsuki 関野 樹

- Sekino, T. and Yamamura, N. (1999) Diel vertical migration of zooplankton: optimum migrating schedule based on energy accumulation. *Evol. Ecol.* 13: 267-282.
- Urabe, J.; Gurung, T. B., Yoshida, T., Sekino, T., Nakanishi, M., Maruo, M. and Nakayama, E. (2000) Diel changes in phagotrophy by *Cryptomonas* in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 45: 1558-1563.

SHIMIZU, Isamu 清水 勇

- Fujita, I.; Shimizu, I., Abe, T. (2000) Distribution of lysozyme and protease, and amino acid concentration in the guts of a wood-feeding termite, *Reticulitermes speratus* (Kolbe): possible digestion of symbiont bacteria transferred by trophallaxis. *Physiological Entomology* 26: 1-8.
- 清水 勇; 谷口賢記, 河合 豊, 青木撰之 (2000) 日本ミツバチの概日リズムとピリオド遺伝子の研究. *日本時間生物学会誌* 6: 84.
- Shimizu, I.; Taniguchi, M., Kawai, Y. and Aoki, S. (2000) Studies of circadian rhythm and clock gene (period) in the honeybee, *Apis cerana* (II) experiments using Symbiotron. *Zool. Science* 17: 90.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

Ueda, S.; Go, C. S. U., Yoshioka, T., Yoshida, N., Wada, E., Miyajima, T., Sugimoto, A., Boontanon, N., Vijarnsorn, P., Boonprakub, S. (2000) Dynamics of dissolved O₂, CO₂, CH₄, and N₂O in a tropical coastal swamp in southern Thailand. *Biogeochemistry* 49: 191-215.

URABE, Jotaro 占部城太郎

Urabe, J.; Gurung, T. B., Yoshida, T., Sekino, T., Nakanishi, M., Maruo, M. and Nakayama, E. (2000) Diel changes in phagotrophic rate of *Cryptomonas* sp. in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 45: 1558-1563.

Gurung, T. B.; Nakanishi, M. and Urabe, J. (2000) Seasonal and vertical difference in negative and positive effects of grazers on heterotrophic bacteria in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 45: 1689-1696.

WADA, Eitaro 和田英太郎

Ueda, S.; Go, C., Yoshioka, T., Yoshida, N., Wada, E., Miyajima, T., Sugimoto, A., Boontanon, N., Vijarnsorn, P., Boonrakub, S. (2000) Dynamics of dissolved O₂, CO₂, CH₄, and N₂O in a tropical coastal swamp in southern Thailand. *Biogeochemistry* 49: 191-215.

Boontanon, N.; Ueda, S., Kanatharana, P., Wada, E. (2000) Intramolecular stable isotope ratios of N₂O in the tropical swamp forest in Thailand. *Naturwissenschaften* 87: 188-192.

Kohzu, A.; Tateishi, T., Yamada, A., Koba, K., Wada, E. (2000) Nitrogen isotope fractionation during nitrogen transport from ectomycorrhizal fungi, *Suillus granulatus*, to the host plant, *Pinus densiflora*. *Soil Sci. Plant Nutr.* 46(3): 733-739.

YACHI, Shigeo 谷内茂雄

Hector, A., Schmidt, B., Beierkuhnlein, C., Caldeira, M. C., Diemer, M., Dimitrakopoulos, P. G., Finn, J. A., Freitas, H., Giller, P. S., Good, J., Harris, R., Hogberg, P., Hass-Danell, K., Joshi, J., Jumpponen, A., Korner, C., Leadley, P. W., Loreau, M., Minns, A., Mulder, C. P. H., O'Donovan, G., Otway, S. J., Pereira, J. S., Prinz, A., Read, D. J., Scherer-Lorenzen, M., Schulze, E.-D., Siamantziouras, A.-S. D., Spehn, E. M., Terry, A. C., Troumbis, A. Y., Woodward, F. I., Yachi, S. & Lawton, J. H. (2000) Response to "No consistent effect of diversity on productivity" by Huston, M. A. et al. *Science* 289: 1255a.

Yachi, S. (2000) What determines the attack distance of a stalking predator? *Evolutionary Ecology Research* 2: 957-964.

YAMAMURA, Norio 山村則男

Genkai-Kato, M. and Yamamura, N. (2000) Profitability of prey determines the response of population abundances to enrichment. Proc. R. Soc. Lnd. B 267: 2397-2401.

Kobayashi, Y. and Yamamura, N. (2000) Evolution of seed dormancy due to sib competition: effect of dispersal and inbreeding. Journal of theoretical Biology 202: 11-24.

Harrison, R.; Yamamura, N. and Inoue, T. (2000) Phenology of a common roadside fig in Sarawak. Ecological Research 15: 47-61.

Takimoto, G.; Higashi, M. and Yamamura, N. (2000) A deterministic genetic model for sympatric speciation by sexual selection. Evolution 54: 1870-1881.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

Yuma, M.; Maruyama, A. & B. Rusuwa (2000) Behavior and distribution of upstream-migrating juvenile *Rhinogobius* sp. (the orange form). Ichthyological Research 47: 379-384.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

Yumoto, T. (2000) Bird-pollination of three *Durio* species (Bombacaceae) in a tropical rainforest in Sarawak, Malaysia. Am. J. Bot. 87 (8): 1181-1188.

著書

ABE, Takuya 安部琢哉 †

Higashi, M.; Yamamura, N., and Abe, T. (2000) Theories on the sociality of termites. In: Termites: evolution, sociality, symbioses, ecology (ed. by Abe, T.; Bignell, D. E. and Higashi, M.) pp. 169-187 Kluwer Academic Publishers.

HIGASHI, Masahiko 東 正彦 †

Higashi, M.; Yamamura, N., and Abe, T. (2000) Theories on the sociality of termites. In: Termites: evolution, sociality, symbioses, ecology (ed. by Abe, T.; Bignell, D. E. and Higashi, M.) pp. 169-187 Kluwer Academic Publishers.

KAWABATA, Zen'ichiro 川端善一郎

川那部浩哉; 川端善一郎 (2000) 食う・食われる生きものたち. In: 生命の地球 6 : 食う食われる生物たち (ed. by 沼田真; 河合雅雄, 日高敏隆, 濱田隆士, 川那部浩哉, 松井孝典, 江田稔) pp.7-18. 三友出版, 東京 .

川端善一郎 (2000) 閉鎖系と開放系、人工生態系、生態系を利用する人間. In: 生命の地球 6 : 食う食われる生物たち (ed. by 沼田真; 河合雅雄, 日高敏隆, 濱田隆士, 川那部浩哉, 松井孝典, 江田稔) pp. 96-105, 122-128, 138-145. 三友出版, 東京 .

川端善一郎; 他 (2000) 海は命 - 宇和島湾浅海養殖漁場環境調査報告書 (昭和59年度 ~ 平成10年度) pp. 739, 207-218, 260-268, 290-304, 355-363, 382-389, 403-410, 452-694. 遊子漁業共同組合・協力愛媛大学沿岸環境科学研究センター (平成12年度愛媛出版文化賞受賞) 鏡味麻衣子; 川端善一郎 (2000) 植物プランクトンの死亡. 月刊海洋 総特集 海洋植物プランクトンII - その分類・生理・生態 - . 号外21: 159-162. 海洋出版株式会社 .

OHGUSHI, Takayuki 大串隆之

大串隆之 (2000) 生態系に見る共生のしくみ. In: 生命の地球 6 : 食う食われる生物たち. pp. 54-61. 三友社出版, 東京.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

Sugimoto, A.; Bignell, D. E. and MacDonald, J. A. (2000) Global impact of termites on the carbon cycle and atmospheric trace gases. In: Termites: evolution, sociality, symbioses, ecology. (ed. by Abe, T.; Bignell, D. E. and Higashi, M.) pp. 409-435. Kluwer Academic Publishers.

YAMAMURA, Norio 山村則男

Higashi, M.; Yamamura, N., and Abe, T. (2000) Theories on the sociality of termites. In: Termites: evolution, sociality, symbioses, ecology (ed. by Abe, T.; Bignell, D. E. and Higashi, M.) pp. 169-187 Kluwer Academic Publishers.

山村則男 (2000) 寄生から共生へ - 昨日の敵は今日の友. 生命の地球 6: 36-44. 三友社出版.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

遊磨正秀; 生田和正 (2000) ホタルとサケ - とりもどす自然のシンボル. シリーズ現代日本生物誌2. 162 pp. 岩波書店.

田中敏博; 小坂育子, 荒井紀子, 岡田玲子, 遊磨正秀, 嘉田由紀子, 井上誠, 大西行雄 (水と文化研究会ホタルダス世話役) 編 (2000) みんなでホタルダス: 琵琶湖地域のホタルと身近な水環境調査. 270 pp. 新曜社, 東京.

嘉田由紀子; 遊磨正秀 (2000) 水辺遊びの生態学 - 琵琶湖地域の三世代の語りから. 210 pp. 農山漁村文化協会, 東京.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和 _____

湯本貴和 (2000) 屋久島オープン・フィールド博物館への道. In: ニホンザルの自然社会 - エコミュージアムとしての屋久島 (ed. by 高畑由紀夫, 山極寿一) pp. 191-214. 京都大学学術出版会.

湯本貴和 (2000) 森と水の島. In: 世界遺産・屋久島 (三好和義写真集) pp. 128-138. 小学館.

湯本貴和 (2000) 多様性の森・熱帯雨林. In: 世界遺産行ってみたい155 (ed. by 世界遺産を旅する会) pp. 112-115. 小学館.

湯本貴和 (2000) 生物多様性と人間生活 - 熱帯雨林の生物とわたしたちの暮らし. 地球環境関西フォーラム. pp. 52+iv.

湯本貴和 (監修) 鬼丸真人 (文) 荒井真紀 (絵) (2000) 熱帯雨林をいく. たくさんのふしぎ第189号, 福音館書店.

その他

DOI, Atsushi 土井 敦 _____

Matuura, K.; Doi, A. & Shinohara, G. (2000) Distribution of freshwater fishes in Japan. National Science Museum, Tokyo. x+256.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎 _____

菊沢喜八郎; 甲山隆司 (2000) 森の自然史 < 複雑系の生態学 >. 北海道大学図書刊行会.

NAGATA, Toshi 永田 俊 _____

Nagata, T. (2000) Production mechanisms of dissolved organic matter. In: Microbial Ecology of the Oceans. (ed. by Kirchman, D. L.) pp. 121-152. John Wiley & Sons, New York.

Nagata, T. and Kirchman, D. L. (2000) Bacterial mortality: A pathway for the formation of

refractory DOM? In: Microbial Biosystems: New Frontiers - Proceedings of the 8th International Symposium on Microbial Ecology. (ed. by Bell, C. R.; Brylinsky, M. and Johnson-Green, P.) Atlantic Canada Society for Microbial Ecology.

Nagata, T. (2000) "Picopellets" produced by phagotrophic nanoflagellates: Role in the material cycling within marine environments. In: Dynamics and Characterization of Marine Organic Matter. (ed. by Handa, N.; Tanoue, E. and Hama, T.) pp. 241-256. Terra Scientific Publication Tokyo.

永田 俊 (2000) 微生物ループ理論の展開. 月刊海洋 23: 76-82.

NAKASHIZUKA, Tohru 中静 透

中静 透 (2000) 窓 - まど 珍しい出来事と普遍的なパターン. 植生史研究 8: 2.

中静 透 (2000) オランウータンの技とホーンビルの視界 - 熱帯林の林冠生態学 - タマリスク 35: 2-3.

中静 透 (2000) 里山の植物の多様性. 里山を考える101のヒント. 日本林業技術協会 pp. 134-135.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

Sugimoto, A. (2000) Study of water circulation using stable isotopes of water. Proceedings of the GAME-MAGS International Workshop. GAME Publication No. 20: 69-72.

WADA, Eitaro 和田英太郎

和田英太郎 (2000) 琵琶湖の変化をときほぐす. 高等研<親子>サイエンススクール, 君の不思議を探そう - 楽しくて大切な琵琶湖 - . pp. 6-14. 国際高等研究所.

和田英太郎 (2000) H₂O, 水循環, 水資源 - それぞれの遺産. 水文・水資源学会誌 13(3): 183-185.

Matsubara, T.; Boontanon, N., Ueda, S., Kanatharana, P., Wada, E. (2000) Nitrogen and carbon cycles of peat swamp forests and surrounding areas in Narathiwat, Thailand, inferred from ¹³C and ¹⁵N analyses. Proceedings of the International Symposium on : Toropical Peat Lands 245-253.

松原健司; 上田真吾, Boontanon, N., Kanatharana P., 和田英太郎 (2000) ナラチワ州 (タイ南部) における生態系と地域住民の食生活 - 安定同位体による解析 - . 淑徳大学国際コミュニケーション学部学会機関誌, 国際コミュニケーション学界. 国際経営・文化研究 14(1): 81-94.

和田英太郎 (2000) 時間に挑戦する科学. 科学 71(1): 1.

Ogawa, N. O.; Yoshii, K., Melnik, N. G., Bondarenko, N. A., Timoshkin, O. A., Smirnova-Zalumi, N. S., Smirnov, V. V. and Wada, E. (2000) Carbon and nitrogen isotope studies of pelagic ecosystem and environmental fluctuations of Lake Baikal. *Lake Baikal* 262-272.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

遊磨正秀; 大場信義, 後藤好正, 川島逸郎, 鈴木浩文, 小坂育子編 (2000) ホタル関連文献目録. 全国ホタル研究会・水と文化研究会 152 pp.

遊磨正秀; 田中拓也, 室田武 (2000) E-mail討論：新たな地球環境科学の地平へ - 海を渡る淡水. *Ecofrontier* 4: 50-53.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第1回生物学者はなぜ木に登るか. *WWFJapan* 30(4): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第2回地上60mの林冠に挑む. *WWFJapan* 30(5): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第3回林冠に挑むさまざまな方法. *WWFJapan* 30(6): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第4回屋久島・照葉樹林の花と昆虫. *WWFJapan* 30(7/8): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第5回ヤクスギの林冠にて. *WWFJapan* 30(9): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第6回サラワク林冠生物学計画. *WWFJapan* 30(10): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第7回ボルネオの一斉開花(1). *WWFJapan* 30(11): 17-18.

湯本貴和 (2000) 林冠生物学こと始め 第8回ボルネオの一斉開花(2). *WWFJapan* 30(12): 7-8.

- 1) 奥富清・井関智裕・角広寛・北山兼弘 (1982) 北硫黄島・硫黄島の植生74pp. 東京植生研究会、東京.
- 2) 奥富清・井関智裕・日置佳之・北山兼弘・角広寛 (1985) 小笠原諸島の植生. 小笠原諸島の固有植物と植生、pp.97-268. アボック社、鎌倉
- 3) 奥富清・井関智裕・日置佳之・北山兼弘・角広寛 (1985) 小笠原諸島の現存植生図、縮尺1 : 2 5、0 0 0. 東京都
- 4) 北山兼弘 (1987) キナバル山の植生 森林文化研究 8: 103-113.
- 5) 北山兼弘 (1987) オヒアの森は生も死も同時. 科学朝日 47:86-90.
- 6) Brunotte, D. and K. Kitayama (1987) The relationship between vegetation and ultrabasic bedrock on the upper slopes of Mount Kinabalu, Sabah. *Warta Geologi* 13: 9-12.
- 7) Kitayama, K. and A. Shaari (1987) Vegetation of Pulau Tiga. *Sabah Society Journal* 8: 340-359.
- 8) 北山兼弘 (1990) 開発進む山地熱帯林. 世界の緑、マレーシア. *グリーンパワー* No.133: 20-23.
- 9) Kitayama, K. (1991) Preserving the tropical rain forests is an urgent challenge. Realistic approaches to environmental issues (part 3). *The Japan Times*, October 18, 1991 (p5全面).
- 10) Kitayama, K. (1991) Vegetation of Mount Kinabalu Park, Sabah, Malaysia. Map of Physiognomically Classified Vegetation, 1:10 000 Scale. Project Paper, Protected Areas and Biodiversity, Environment and Policy Institute, East-West Center, Honolulu.
- 11) Kitayama, K. (1991) Threatened endemic species of the Bonin (Ogasawara) Islands. *Pacific Science Association Information Bulletin* 43 (3-4): 9-10.
- 12) Kitayama, K. and D. Mueller-Dombois (1992) Vegetation of the wet windward slope of Mount Haleakala, Maui, Hawaii. *Pacific Science* 46: 197-220.
- 13) Kitayama, K. (1992) An altitudinal transect study of the vegetation on Mount Kinabalu, Borneo. *Vegetatio* 102: 149-171.
- 14) Kitayama, K., J. Kulip, J. Nais, and A. Biun (1993) Vegetation survey on Mount Trus Madi, Borneo -A prospective new mountain park-. *Mountain Research and Development* 13: 99-105.
- 15) Kitayama, K. (1993) Human impacts and implications for management in Mount Kinabalu Park, Sabah, Malaysia. *Parks, Peaks, and People*, p.89-93. A Collection of Papers Arising from an International Consultation on Protected Areas in Mountain Environments Held in Hawaii Volcanoes National Park, 26 October-2 November 1991. East-West Center, Honolulu.
- 16) Kitayama, K. (1993) Biophysical conditions of the montane cloud forest on Mt. Kinabalu, Sabah, Malaysia. In: Hamilton, L.S., Juvik, J.O. and Scatena, F.N. (eds.) *Tropical Montane Cloud Forests*, pp. 115-125. Proceedings of an International Symposium at San Juan, Puerto Rico. East-West Center, Honolulu. (Reproduced as a chapter In; *Tropical Montane Cloud Forests*, Ecological Studies 110, Springer-Verlag, New York)
- 17) Kitayama, K. and D. Mueller-Dombois (1994) An altitudinal transect analysis of the windward

- vegetation on Haleakala, a Hawaiian mountain: (1) climate and soils. *Phytocoenologia* 24: 111-133.
- 18) Kitayama, K. and D. Mueller-Dombois (1994) An altitudinal transect analysis of the windward vegetation on Haleakala, a Hawaiian mountain: (2) Vegetation zonation. *Phytocoenologia* 24: 135-154.
- 19) 北山兼弘 (1994) ギンケンソウ. 「植物の世界」 5号朝日新聞社 p.152-154.
- 20) Kitayama, K., D. Mueller-Dombois, and P. M. Vitousek (1995) Primary succession of Hawaiian montane rain forest on a chronosequence of eight lava flows. *Journal of Vegetation Science* 6: 211-222.
- 21) Kitayama, K. and D. Mueller-Dombois (1995) Vegetation changes along gradients of long-term soil development in the Hawaiian montane rainforest zone. *Vegetatio* 120: 1-20.
- 22) Vitousek, P.M., D.R. Turner, and K. Kitayama (1995) Foliar nutrients during long-term soil development in Hawaiian montane rain forest. *Ecology* 76: 712-720.
- 23) Crews, T., K. Kitayama, et al. (1995) Changes in soil phosphorus fractions and ecosystem dynamics across a long chronosequence in Hawaii. *Ecology* 76: 1407-1424.
- 24) Kitayama, K. and D. Mueller-Dombois (1995) Biological invasion on an oceanic island mountain: Do alien species have wider ecological ranges than native species? *Journal of Vegetation Science* 6: 667-674.
- 25) Kitayama, K. (1995) Biophysical conditions of the montane cloud forest on Mt. Kinabalu, Sabah, Malaysia. In: Hamilton, L. et al. (eds) *Tropical Montane Cloud Forest, Ecological Studies* 110, pp. 183-197. Springer, New York.
- 26) Kitayama, K. (1995) Long-term Climate Monitoring in the Alpine Region of a Bornean High Mountain, Kinabalu: The 1992 El Nino Climate Science Council of Japan (日本学術会議) An Interim of IGBP Activities in Japan (日本における IGBP活動中間報告) p.121-131.
- 27) 北山兼弘 (1995) 土壌窒素の無機化速度を指標とした熱帯山岳のハビタット多様性把握 森林総合研究所 海外研究業務報告1995年 p.35-41.
- 28) 北山兼弘 (1995) 山岳地における植生帯の移動条件に関する調査研究. 熱帯地域における調査研究. 地球環境研究総合推進費 平成7年度研究成果報告集(分冊II) p.435-444.
- 29) 北山兼弘 (1995) ハレアカラ国立公園. 「植物の世界」 54号朝日新聞社 p.193.
- 30) 北山兼弘 (1995) ハワイ火山国立公園. 「植物の世界」 55号朝日新聞社 p.225.
- 31) Mueller-Dombois, D. and K. Kitayama (1996) Research hypotheses for DIWPA cooperation. In: Turner, I.M., Diong, C.H., Lim, S.L. and P.K.L. Ng (eds.), *Biodiversity and the dynamics of ecosystems*, pp.33-37. The International Network for DIVERSITAS in Western Pacific and Asia, Kyoto, Japan.
- 32) Kitayama, K. (1996) Climate of the summit region of Mount Kinabalu (Borneo) in 1992, an El Nino year. *Mountain Research and Development* 16: 65-75.
- 33) Kitayama, K. (1996) Soil nitrogen dynamics along a gradient of long-term soil development in a Hawaiian wet montane rainforest. *Plant and Soil* 183: 253-262.
- 34) Nakao, P. and K. Kitayama (1996) Distribution of *Bradyrhizobium* spp. And endemic leguminous tree *Acacia koa* along an altitudinal transect on the windward slope of Haleakala,

- Maui, Hawaii. *Biotropica* 28: 400-403.
- 35) Kitayama, K. (1996) Patterns of species diversity on an oceanic versus a continental island mountain - a hypothesis on species diversification. *Journal of Vegetation Science* 7: 879-888.
- 36) Kitayama, K., Schuur, E., Drake, D. R. and D. Mueller-Dombois (1997) Fate of a wet montane forest during soil aging in Hawaii. *Journal of Ecology* 85: 669-679.
- 37) 北山兼弘 (1996) リターラップを用いた湿潤熱帯山地における樹木のリター動態の把握 森林総合研究所海外研究業務報告1996年 p.31-36.
- 38) 北山兼弘 (1996) ハワイ諸島 - 多様な環境に彩られた島々 - . 「植物の世界」107号朝日新聞社 p.266-273.
- 39) 北山兼弘・伊藤雅道・岩本宏二郎 (1996) アジア太平洋地域における地球温暖化の局地植生への影響とその保全に関する研究 - 湿潤熱帯山岳における森林植生帯閾値と地球温暖化のインパクト評価に関する研究. 地球環境研究総合推進費 平成8年度研究成果報告集 (中間報告I) p.404-407.
- 40) Kitayama, K., D. Mueller-Dombois, R. Pattison, and S. Cordell-Hart (1997) Ecological and genetic implications of foliar polymorphism in *Metrosideros polymorpha* Gaud. (Myrtaceae) in a habitat matrix on Mauna Loa, Hawaii. *Annals of Botany* 80: 491-497.
- 41) 北山兼弘 (1997) マキ属 (Podocarp). 森 徳典 (編) 熱帯樹種の造林特性 第2巻、pp.72-74. 国際緑化推進センター
- 42) 北山兼弘 (1997) ホウオウボク (Flame Tree). 「熱帯樹種の造林特性」第3巻、p.78-82. 国際緑化推進センター
- 43) 北山兼弘 (1997) 熱帯山地の照葉樹林について (講演要旨) - ボルネオ島キナバル山の熱帯山地降雨林を中心に - 1997年3月 第7回千葉県立中央博物館自然誌シンポジウムの記録 p.181-182.
- 44) 北山兼弘・伊藤雅道・岩本宏二郎 (1997) アジア太平洋地域における地球温暖化の局地植生への影響とその保全に関する研究 - 湿潤熱帯山岳における森林植生帯閾値と地球温暖化のインパクト評価に関する研究. 地球環境研究総合推進費 平成9年度研究成果報告集 (中間報告III) p.108-111.
- 45) Kitayama, K., H. Raitio, D. Mueller-Dombois, and E. Schuur (1998) Wood volume, foliar chemical compositions and soil N mineralization in *Metrosideros polymorpha* (Myrtaceae) stands on Haleakala, Hawaii. *Biotropica* 30: 330-338.
- 46) 北山兼弘・相場慎一郎・木村一也・菊沢喜八郎 (1998) 1996一斉開花年におけるキナバル山丘陵林・山地林のリター動態. *TROPICS* 7(3/4): 309-317.
- 47) Kitayama, K., S. Aiba, N. Majalap-Lee, and M. Ohsawa. (1998) Soil nitrogen mineralization rates of rainforests in a matrix of elevations and geological substrates on Mount Kinabalu, Borneo. *Ecological Research* 13: 301-312.
- 48) Aiba, S. and K. Kitayama (1999) Species composition, structure and species diversity of rain forests in a matrix of altitudes and substrates on Mt. Kinabalu, Borneo. *Plant Ecology* 140: 139-157.
- 49) Kitayama, K., M. Lakim, M. and M. Z. Wahab (1999) Climate profile of Mount Kinabalu during late 1995-early 1998 with special reference to the 1998 drought. *Sabah Parks Nature Journal* 2: 85-100.

- 50) Kudo, G. and K. Kitayama (1999) Drought effects on the summit vegetation on Mount Kinabalu by an El Nino event in 1998. *Sabah Parks Nature Journal* 2: 101-110.
- 51) Kitayama, K. and S. Itow (1999) Above-ground biomass and soil nutrient pools of a *Scalesia pedunculata* montane forest on Santa Cruz, Galapagos. *Ecological Research* 14: 405-408.
- 52) Kitayama, K. and S. Aiba (1999) Responses of tropical rain forests to the 1997-98 drought in standing litter fuel load and litter flux on a slope of Mt. Kinabalu, Borneo. Proceedings of the Second International Symposium on South-east Asia Rain Forests. September 1999, PSREFUT, Samarinda, Indonesia.

NAGATA, Toshi 永田 俊

- 1) Nagata, T. and Watanabe Y. (1983) Observations on the colonial pattern of periphytic bacteria in a river. *Physiology and Ecology, Japan*. 20: 71-79.
- 2) Nagata, T. (1984) Bacterioplankton in Lake Biwa; Annual fluctuations of bacterial numbers and their possible relationship with environmental variables. *The Japanese Journal of Limnology* 45: 126-133.
- 3) Nagata, T. (1985) Filter mesh-sizes of *Daphnia longispina* and its filtering rates on natural bacteria. *Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University, Series of Biology*. 10: 109-114.
- 4) Nagata, T. (1986) Carbon and nitrogen content of natural planktonic bacteria. *Applied and Environmental Microbiology* 52: 28-32.
- 5) Nagata, T. (1986) The seasonal abundance and vertical distribution of the <3- μ m phytoplankton in the north basin of Lake Biwa. *Ecological Research* 1: 207-221.
- 6) Nagata, T. (1987) Production rate of planktonic bacteria in the north basin of Lake Biwa, Japan. *Applied and Environmental Microbiology* 53: 2872-2882.
- 7) Nagata, T. (1988) Seasonal abundance, grazing impacts on bacteria, and vertical distribution of heterotrophic microflagellates in the south basin of Lake Biwa. *The Japanese Journal of Limnology* 49: 167-174.
- 8) Nagata, T. (1988) The microflagellate-picoplankton food linkage in the water column of Lake Biwa. *Limnology and Oceanography* 33: 504-517.
- 9) Nagata, T. and Okamoto, K. (1988) Filtering rates on natural bacteria by *Daphnia longispina* and *Eodiaptomus japonicus* in Lake Biwa. *Journal of Plankton Research* 10: 835-850.
- 10) Nagata, T. (1988) Contribution of planktonic bacteria to the carbon cycling in lake environments. *Topics in Prokaryotes Biology* 1: 16-23.
- 11) Nagata, T.; Someya, T., Konda, T., Yamamoto, M., Morikawa, K., Fukui, M., Kuroda, N., Takahashi, K., Oh, S., Mori, M., Araki, S. and Kato, K. (1989) Intercalibration of the acridine orange direct count method of aquatic bacteria. *Bulletin of Japanese Society of Microbial Ecology* 4: 89-99.
- 12) Nagata, T. and Kirchman, D. L. (1990) Filtration-induced release of dissolved free amino acids: application to cultures of marine protozoa. *Marine Ecology Progress Series* 68: 1-5.

- 13) Nagata, T. and Watanabe, Y. (1990) Carbon-and nitrogen-to-volume ratios of bacterioplankton grown under different nutritional conditions. *Applied and Environmental Microbiology* 56: 1303-1309.
- 14) Nagata, T. (1990) Contribution of picoplankton to the grazer food chain of Lake Biwa. In: *Large Lakes - Ecological Structure and Function*. (ed. by M. M. Tilzer and C. Serruya) pp. 526-539. Springer-Verlag, Berlin.
- 15) Nagata, T. and Kirchman, D. L. (1991) Release of dissolved free and combined amino acids by bacterivorous marine flagellates. *Limnology and Oceanography* 36: 433-443.
- 16) Nagata, T. and Kirchman, D. L. (1992) Release of dissolved organic matter by heterotrophic protozoa: Implications for microbial food webs. *Archiv fur Hydrobiologie, Beiheft Ergebnisse der Limnologie* 35: 99-109.
- 17) Nagata, T. and Kirchman, D. L. (1992) Release of macromolecular organic complexes by heterotrophic marine flagellates. *Marine Ecology Progress Series* 83: 233-240.
- 18) 永田 俊 (1993) 浮遊性細菌の炭素現存量 - 測定方法の諸問題. *日本微生物生態学会報* 8: 49-58.
- 19) 永田 俊 (1993) 微生物ループと水圏物質循環 - 溶存有機物の生成と分解をめぐって. *日本微生物生態学会報* 8: 149-155.
- 20) Nagata, T.; Takai, K., Kawanobe, K., Kim, D-S., Nakazato, R., Guselnikova, N., Bondarenko, N., Mologaway, O., Kostronova, T., Drucker, V., Satoh, Y. and Watanabe, Y. (1994) Autotrophic picoplankton in Lake Baikal: abundance, growth, and grazing mortality during summer. *Journal of Plankton Research* 16: 945-959.
- 21) 永田 俊 (1994) 海洋微生物群集の捕食過程における有機物代謝に関する研究 (1994年度日本海洋学会岡田賞受賞記念講演). *海の研究* 3: 427-436.
- 22) Haga, H.; Nagata, T and Sakamoto, M. (1995) Size-fractionated ammonium regeneration in two mesotrophic lakes. *Limnology and Oceanography* 40: 1091-1099.
- 23) Nagata, T. and Koike, I. (1995) Marine colloids: their roles in food webs and biogeochemical fluxes. In: *Biogeochemical Processes and Ocean Flux in the Western Pacific*. (ed. by Sakai, H. and Nozaki, Y.) pp. 275-292. Terra Scientific Publishers Co., Tokyo.
- 24) Nagata, T. and Kirchman, D. L. (1996) Bacterial degradation of protein adsorbed to model submicron particles in seawater. *Marine Ecology Progress Series* 132: 241-248.
- 25) Nagata, T.; Takai, K., Kawabata, K., Nakanishi, M. and Urabe, J. (1996) The trophic transfer via a picoplankton-flagellate-copepod food chain during a picocyanobacterial bloom in Lake Biwa. *Archiv fur Hydrobiologie* 137: 145-160.
- 26) Frenette, J-J.; Vincent, W. F., Legendre, L. and Nagata, T. (1996) Size-dependent phytoplankton responses to atmospheric forcing in Lake Biwa. *Journal of Plankton Research* 18: 371-391.
- 27) Frenette, J-J.; Vincent, W. F., Legendre, L. and Nagata, T. (1996) Size-dependent changes in phytoplankton C and N uptake in the dynamic mixed layer of Lake Biwa. *Freshwater Biology* 36: 221-236.
- 28) Haga, H.; Nagata, T. and Sakamoto, M. (1996) NH₄ regeneration and uptake in mesotrophic

- lakes: diurnal and seasonal variations. *The Japanese Journal of Limnology* 57: 213-223.
- 29) Frenette, J.-J.; Vincent, W. F., Legendre, L., Nagata, T., Kawabata, K., and Kumagai, M. (1996) Biological responses to typhoon-induced mixing in two morphologically distinct basins of Lake Biwa. *The Japanese Journal of Limnology* 57: 501-510.
- 30) Nagata, T.; Ogawa, T., Frenette, J.-J., Legendre, L., and Vincent, W. F. (1996) Uncoupled responses of bacterial and algal production to storm-induced mixing in Lake Biwa. *The Japanese Journal of Limnology* 57: 533-543.
- 31) Ogawa, T. and Nagata, T. (1996) Effects of storm disturbance on bacterial utilization of dissolved amino acids in the shallow, eutrophic South Basin of Lake Biwa. *The Japanese Journal of Limnology* 57: 523-531.
- 32) 永田 俊 (1996) 温室の中の海洋生物ネットワーク. In: 大気水圏科学から見た地球温暖化 (ed. by 半田暢彦) pp. 279-286. 名古屋大学出版会.
- 33) 永田 俊 (1997) 海洋における微生物食物網の構造と機能. *日本生態学会誌* 47: 63-69.
- 34) Koike, I. and Nagata, T. (1997) High potential activity of extracellular alkaline phosphatase in deep waters of the central Pacific. *Deep-Sea Research II*. 44: 2283-2294.
- 35) Nagata, T. and Kirchman, D. L (1997) Roles of submicron particles and colloids in microbial food webs and biogeochemical cycles within marine environments. *Advances in Microbial Ecology* 15: 81-103.
- 36) Nagata, T.; Fukuda, R., Koike, I., Kogure, K. and Kirchman, D. L. (1998) Degradation by bacteria of membrane and soluble protein in seawater. *Aquatic Microbial Ecology* 14: 29-37.
- 37) Yamasaki, A.; Fukuda, H., Fukuda, R., Miyajima, T., Nagata, T., Ogawa, H. and Koike, I. (1998) Submicrometer particles in northwest Pacific coastal environments: abundance, size distribution and biological origins. *Limnology and Oceanography* 43: 536-542.
- 38) Fukuda, R.; Ogawa, H., Nagata, T. and Koike, I. (1998) Direct determination of carbon and nitrogen content of natural bacterial assemblages in marine environments. *Applied and Environmental Microbiology* 64: 3352-3358.

原著論文

HYODO, Fujio 兵藤不二夫

Hyodo, F.; Inoue, T., Azuma, J.-I., Tayasu, I. and Abe, T. (2000) Role of the mutualistic fungus in lignin degradation in the fungus-growing termite *Macrotermes gilvus* (Isoptera; Macrotermitinae). *Soil Biology & Biochemistry* 32(5): 653-658.

ICHIE, Tomoaki 市榮智明

市榮智明; 二宮生夫, 荻野和彦 (2000) オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* の実生の初期成長にもなう胎生種子内貯蔵養分の利用消費. *Tropics* 9: 153-163.

KAGAMI, Maiko 鏡味麻衣子

鏡味麻衣子; 川端善一郎 (2000) 植物プランクトンの死亡. 月刊海洋 海洋植物プランクトン - その分類・生理・生態 - . 号外21: 159-162.

KATO, Motomi 加藤元海

Genkai-Kato, M.; Nozaki, K., Mitsuhashi, H., Kohmatsu, Y., Miyasaka, H. & Nakanishi, M. (2000) Push-up response of stonefly larvae in low-oxygen conditions. *Ecological Research* 15: 175-179.

Genkai-Kato, M. & Yamamura, N. (2000) Profitability of prey determines the response of population abundances to enrichment. *Proc. R. Soc. Lond. B* 267: 2397-2401.

KONDOH, Michio 近藤倫生

Kondoh, M. and Higashi, M. (2000) Reproductive isolation mechanism resulting from resolution of intragenomic conflict. *The American Naturalist* 156: 511-518.

Kondoh, M. (2000) Coevolution of nuptial gift and female multiple mating resulting in diverse breeding systems. *Evolutionary Ecology Research* 3: 75-89.

Ide, J. and Kondoh, M. (2000) Male-female evolutionary game on mate-locating behaviour and evolution of mating systems in insects. *Ecology Letters* 3: 433-440.

Kondoh, M. (2001) Unifying the relationships of species richness to productivity and disturbance. Proceedings of the Royal Society of London. Series B 268: 269-271.

MATSUI, Kazuaki 松井一彰_____

Matsui, K.; Kono, S., Saeki, A., Ishii, N., Min, M-G. and Kawabata, Z. (2000) Direct and indirect interactions for coexistence in a species defined microcosm. Hydrobiologia 435: 109-116.

TAKIMOTO, Gaku 瀧本 岳_____

Takimoto, G.; Higashi, M. and Yamamura, N. (2000) A deterministic genetic model for sympatric speciation by sexual selection. Evolution 54(6): 1870-1881.

YOSHIDA, Takehito 吉田丈人_____

Yoshida, T.; Ban, S., Takenouchi, T., Aono, T., Ishikawa, Y., Mikami, H., Takano, K., Imada, K., Yasutomi, R., Takeuchi, K. (2000) Top-down control of population dynamics of the dominant rotifers in two mesotrophic lakes in Hokkaido, Japan. Archiv fur Hydrobiologie 148: 481-498.
Urabe, J.; Gurung, T. B., Yoshida, T., Sekino, T., Nakanishi, M., Maruo, M., Nakayama, E. (2000) Diel changes in phagotrophy by *Cryptomonas* in Lake Biwa. Limnology and Oceanography 45: 1558-1563.

IMAI, Ichiro 今井一郎

- 1) Imai, I.; Itakura S. (1999) Importance of cysts in the population dynamics of the red tide flagellate *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae). Mar. Biol. 133: 755-762.
- 2) Kondo, R.; Imai, I., Fukami, K., Minami, A., Hiroishi, S. (1999) Phylogenetic analysis of algicidal bacteria (Family Flavobacteriaceae) and selective detection by PCR using a specific primer set. Fisheries Sci. 65: 432-435.
- 3) 今井一郎 (1999) 微生物を用いた赤潮の防除. 化学工業 50: 668-676.
- 4) Nagai, S.; Imai, I., Yamauchi, K., Manabe, T. (1999) Induction of sexuality in the diatom *Coscinodiscus wailesii* Gran by a marine bacterium *Alcaligenes* sp. in culture. In: 14th Diatom Symposium 1996. (ed. by Mayama, S.; Idei, M. and Koizumi, I.) pp.197-212. Koeltz Sci. Books, Koenigstein.
- 5) Itakura, S.; Nagasaki, K., Yamaguchi, M., Imai, I. (1999) Abundance and apatial distribution of viable resting stage cells of planktonic diatoms in bottom sediments of the Seto Inland Sea, Japan. In: 14th Diatom Symposium 1996. (ed. by Mayama, S.; Idei, M. and Koizumi, I.) pp.213-226. Koeltz Sci. Books, Koenigstein.
- 6) 長井 敏; 今井一郎 (1999) 大型珪藻 *Coscinodiscus wailesii* の休眠細胞の形成, 生存および復活に及ぼす培養諸条件の影響. 日本プランクトン学会報 46: 143-151.
- 7) 今井一郎; 中桐 栄, 牧 輝弥 (1999) *Heterocapsa circularisquama* と海洋細菌との関係. 日本プランクトン学会報 46: 172-177.
- 8) Nagai, S.; Imai, I. (1999) Factors inducing resting-cell formation of *Coscinodiscus wailesii* (Bacillariophyceae) in culture. Plankton Biol. Ecol. 46: 94-103.
- 9) 石田祐三郎; 今井一郎 (1999) 「自然界の微生物相互作用 - 微生物農薬の効用」 - 序論. Microbes & Environments 14: 243-244.
- 10) 長井 敏; 今井一郎 (1999) 海洋細菌を用いた有害大型珪藻 *Coscinodiscus wailesii* の生物学的制御の可能性. Microbes & Environments 14: 253-262.
- 11) Nagai, S.; Imai, I. (1999) The effect of salinity on the size of initial cells during vegetative cell enlargement of *Coscinodiscus wailesii* (Bacillariophyceae) in culture. Diatom Res. 14: 337-342.
- 12) 今井一郎 (1999) デイノフィシス属の出現生態と下痢性貝毒原因生物の探査 - 舞鶴湾と陸奥湾における調査および分離培養の試み. 平成10年度二枚貝等貝毒安全対策事業報告書 pp.1-23. 水産庁.
- 13) 今井一郎 (1999) 殺藻細菌の抗体等による生態解析 - 殺藻阻害細菌の分離と作用および夏季の播磨灘におけるシャットネラと殺藻細菌の動態. 平成10年度海洋微生物活用技術開発試験報告書 pp.111-128. 水産庁.
- 14) 今井一郎 (2000) ラフィド藻における分類と同定の問題点. 日本プランクトン学会報 47: 55-64.
- 15) 今井一郎 (2000) プランクトン採取法. In: 海洋環境アセスメントのための微生物実験法. (ed. by 石田祐三郎; 杉田治男) pp.9-11. 恒星社厚生閣, 東京.

- 16) 今井一郎 (2000) 赤潮微細藻類の計数と無菌培養法. In: 海洋環境アセスメントのための微生物実験法. (ed. by 石田祐三郎; 杉田治男) pp.85-90. 恒星社厚生閣, 東京.
- 17) 山口峰生; 今井一郎 (2000) 赤潮・貝毒プランクトンのシストの計数. In: 海洋環境アセスメントのための微生物実験法. (ed. by 石田祐三郎; 杉田治男) pp.126-133. 恒星社厚生閣, 東京.
- 18) 今井一郎; 深見公雄 (2000) 従属栄養性微小鞭毛虫の識別と計数法. In: 海洋環境アセスメントのための微生物実験法. (ed. by 石田祐三郎; 杉田治男) pp.133-136. 恒星社厚生閣, 東京.
- 19) 今井一郎 (2000) ラフィド藻赤潮の発生機構と予知. In: 有害・有毒赤潮の発生と予知・防除. (ed. by 石田祐三郎; 本城凡夫, 福代康夫, 今井一郎) pp.29-70. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 20) 今井一郎 (2000) 海洋植物プランクトンと細菌との関係. 月刊海洋/号外 No.21: 169-177.
- 21) 長崎慶三; 山口峰生, 今井一郎 (2000) 英虞湾から分離された海洋細菌 AA8-2 株の *Heterocapsa circularisquama* に対する殺藻性に関する検討. 日本水産学会誌 66: 666-673.
- 22) 今井一郎 (2000) 赤潮の発生 - 海からの警告 - . 遺伝 54 (9): 30-34.
- 23) 今井一郎; 山口峰生, 小谷祐一 (2000) 有害有毒プランクトンの生態. 月刊海洋/号外 No.23: 148-160.
- 24) Imai, I.; Nishitani, G. (2000) Attachment of picophytoplankton to the cell surface of the toxic dinoflagellates *Dinophysis acuminata* and *D. fortii*. Phycologia 39: 456-459.
- 25) 今井一郎 (2000) 殺藻細菌の抗体等による生態解析. 海洋微生物活用技術開発試験・最終報告書 - 海洋微生物による赤潮藻殺滅のためのバイオコントロール - pp.214-244. 水産庁.
- 26) 今井一郎 (2000) ディノフィシス属の出現生態と下痢性貝毒原因生物の探査 - 舞鶴湾と陸奥湾におけるディノフィシス属と微小プランクトンの動態および分離培養した微小プランクトンの毒性. 平成11年度二枚貝等貝毒安全対策事業報告書 pp.1-21. 水産庁.
- 27) 今井一郎 (2000) ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマのモノクローナル抗体を利用したモニタリング技術の開発: 現場水域への応用技術の開発 - 間接蛍光抗体法の検討 - . 平成11年度赤潮対策技術開発試験ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業, ヘテロカプサ赤潮等による被害防止対策試験報告書 pp.22-37. 水産庁.

INUBUSHI, Kazuyuki 犬伏和之

- 1) Cheng, W.; Chander, K., Inubushi, K. (2000) Effect of elevated CO₂ and temperature on microbial biomass nitrogen and nitrogen mineralization in submerged soil microcosms. Soil Microorganisms 54: 51-59. [CO₂, soil microbial biomass, N mineralization, temperture]
- 2) Acquaye, S.; Hadi, A., Cheng, W., Inubushi, K. (2000) Effect of fertilizers on soil microbial biomass in two types of paddy fields. Tech. Bull. Fac. Hort. Chiba Univ. 54: 1-11. [soil microbial biomass, N mineralization, Andosol, slow release fertilizer]
- 3) Suzuki, H.; Kumagai, H., Oohashi, K., Sakamoto, K., Inubushi, K., Enomoto, S., Ambe, F.

- (2000) Uptake of 15 trace elements in arbuscular mycorrhizal marigold measured by the multitracer technique. *Soil Sci. Plant Nutr.* 46: 283-289. [mycorrhizae, multitracer, trace elements, rhizosphere]
- 4) Goyal, S.; Sakamoto, K., Inubushi, K. (2000) Microbial biomass and activities along an andosol profile in relation to soil organic matter level. *Microbes and Environment* 15: 143-150. [soil microbial biomass, N mineralization, Andosol, soil profile]
- 5) Inubushi, K.; Goyal, S., Sakamoto, K., Wada, Y., Yamakawa, K., Arai, T. (2000) Influence of application of sewage sludge compost on N₂O production in soils. *Chemosphere* 2: 329-334. [N₂O, sewage sludge compost, organic matter]
- 6) Hadi, A.; Inubushi, K., Purnomo, E., Razie, F., Yamakawa, K., Tsuruta, H. (2000) Effect of land-use changes on nitrous oxide (N₂O) emission from tropical peatlands. *Chemosphere* 2: 347-358. [N₂O, tropical peat soil, land-use change]
- 7) Cheng, W.; Chander, K., Inubushi, K. (2000) Effect of elevated CO₂ and temperature on methane production and emission from submerged soil microcosms. *Nutrient Cycling in Agroecosystems* 58: 339-347. [CO₂, CH₄, soil microbial biomass, N mineralization, temperature]
- 8) 犬伏和之 (2000) 地球温暖化ガスの土壌生態系との関わり 2. メタンと土壌生態系. *日本土壌肥料学雑誌* 71: 400-409. [メタン、水田、自然湿地、生成、酸化]
- 9) 犬伏和之 (2000) 土壌バイオマス活性測定法. *圃場と土壌* 32(10, 11): 106-114. [土壌微生物、元素循環、迅速測定、土壌診断]

ITINO, Takao 市野隆雄

- 1) Nomura, M.; Itioka, T., Itino, T. (2000) Variations in abiotic defense within myrmecophytic and non-myrmecophytic species of *Macaranga* in a Bornean dipterocarp forest. *Ecological Research* 15: 1-11.
- 2) Itioka, T.; Nomura, M., Inui, Y., Itino, T., Inoue, T. (2000) Difference in intensity of ant defense among three species of *Macaranga* myrmecophytes in a Southeast Asian dipterocarp forest. *Biotropica* 32: 318-326.
- 3) 潘宇; K. S. Ahmed, 市野隆雄 (2000) ニームオイル揮発成分に対するアズキゾウムシ *Callosobruchus chinensis* の反応. *香川大学農学部学術報告* 52: 67-69.
- 4) 田井謙一郎; 市野隆雄 (2000) 香川県における訪花性ハナアブ類の季節消長と花利用様式. *香川大学農学部学術報告* 52: 71-77.

ITIOKA, Takao 市岡孝朗

- 1) Itioka, T.; Nomura, M., Inui, Y., Itino, T. and Inoue, T. (2000) Difference in intensity of ant defense among three species of *Macaranga* myrmecophyte in a Southeast Asian dipterocarp forest. *Biotropica* 32: 318-326.

- 2) Nomura, M.; Itioka, T. and Itino, T. (2000) Variations in abiotic defense within myrmecophytic and non-myrmecophytic species of *Macaranga* in a Bornean dipterocarp forest. *Ecological Research* 15: 1-11.
- 3) Murase, K.; Kinomura, K. and Itioka, T. (2000) Difference in queen size distribution and monogyny / polygyny frequencies between two sibling species of *Leptothorax* ant (Hymenoptera: Formicidae). *Sociobiology* 20: 53-62.
- 4) Kato, M.; Itioka, T., Sakai, S., Momose, K., Yamane, S., Hamid, A. A. and Inoue, T. (2000) Various population fluctuation patterns of light-attracted beetles in a tropical lowland dipterocarp forest in Sarawak. *Population Ecology* 42: 97-104.
- 5) Yamamoto, T.; Yata, O. and Itioka, T. (2000) Descriptions on the Early Stages of *Chilasa paradoxa* (Zinken, 1831) from North Borneo (Lepidoptera: Papilionidae). *Entomological Science* 3: 627-633.
- 6) 市岡孝朗 (2000) アリ類が生物群集に果たす役割. *昆虫と自然* 35(5): 4-6.
- 7) 山本卓司; 市岡孝朗 (2000) 東南アジア島嶼における蝶類の擬態現象. *昆虫と自然* 36(11): 4-9.

KAMEDA, Kayoko 亀田佳代子

- 1) 石田朗; 松沢友紀, 亀田佳代子, 成末雅恵 (2000) 日本におけるカワウの増加と被害 - 地域別・問題別の概況と今後の課題 - . *Strix* 18: 1-28.
- 2) Kameda, K.; Koba, K., Yoshimizu, C., Fujiwara, S., Hobara, S., Koyama, R., Tokuchi, N., Takayanagi, A. (2000) Nutrient flux from aquatic to terrestrial ecosystem mediated by the Great Cormorant. *Sylvia* 36, Suppl.: 54-55.
- 3) 亀田佳代子; 秋元博一 (2000) キジバトの雛における体重およびふしよ骨長の成長解析. *森林野生動物研究会誌* 25/26: 85-94.

KANEKO, Nobuhiro 金子信博

- 1) Kaneko, N; Kofuji, R. (2000) Effects of soil pH gradient caused by stemflow acidification on soil microarthropod community structure in a Japanese Red Cedar plantation: an ecological risk on decomposition. *Journal of Forest Research* 5: 157-162. [soil microarthropods, soil acidification, soil microbial biomass]
- 2) 金子信博 (2000) 微生物と動物の相互依存関係. In: *森林微生物生態学*. (ed. by 二井一禎; 肘井直樹) pp78-82. 朝倉書店, 東京. [森林生態系, 微生物, 共生]
- 3) 金子信博 (2000) 土壌生態系の微生物と動物の相互作用. In: *森林微生物生態学*. (ed. by 二井一禎; 肘井直樹) pp83-90. 朝倉書店, 東京. [土壌, 分解系]

- 902) 川那部浩哉 (2000) 生命と暮らしの「賑わい」次代に. 京都新聞 2000/1/1.
- 903) 川那部浩哉 (2000) 淡水魚の目で環境をみる (アユより愛をこめて). 滋賀経済同友会
だより 2000(1): 16-25.
- 904) 川那部浩哉 (2000) 琵琶湖の魚が、うんと食べられるようにしたい. 近江夢・街・道
9: 3. 日本道路公団大津工事事務所, 大津.
- 905) 川那部浩哉・里口保文 (2000) 館長室から. 湖国と文化 90: 54-55. 滋賀県文化振興事業
団, 大津.
- 906) 川那部浩哉・今森光彦 (2000) びわ湖と里山を語る: 対談ふるさとの自然はいま.
滋賀民報 2000/1/2.
- 907) 来見誠二・川那部浩哉・布谷知夫 (2000) 朽木の自然と文化をいかして、自然と触れ
合う. 朽木いきものふれあいの里. うみんど 13: 2-3.
- 908) 川那部浩哉 (2000) 現代の言葉: 西暦二〇〇〇年の旧暦元旦に. 京都新聞夕刊 2000/2/9.
- 909) 川那部浩哉 (2000) 推薦の言葉. 水辺遊びの生態 - (嘉田由紀子・遊磨正秀著) カバ
ー. 農山漁村文化協会, 東京.
- 910) 川那部浩哉・島津康男・吉田正人 (2000) <座談会> 環境アセスメントで環境を守る
には. 科学 70(3): 175-186.
- 911) 川那部浩哉 (2000) 驚嘆すべき収集. 世界海産貝類コレクション大図鑑 (菱田嘉田著)
iv. 久美, 京都.
- 912) 川那部浩哉 (2000) コメント: 長い「歴史」を見据えて. Challenge 21! 「あなたの提
言」3: 5. 日本育英会, 東京.
- 913) 横山俊夫・藤井譲治・遊磨正秀・川那部浩哉編 (2000) 安定社会の総合研究 - 安定社
会をみる・かたるノことばをめぐって -. 54 pp. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 914) 深見陶冶・川那部浩哉ほか (2000) 作品に名をつけるということ. 安定社会の総合研
究 - 安定社会をみる・かたるノことばをめぐって -. (横山俊夫・藤井譲治・遊磨正
秀・川那部浩哉編) 28-51. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 915) 川那部浩哉・横山俊夫ほか (2000) 講評・全体討論. 安定社会の総合研究 - 安定社会を
みる・かたるノことばをめぐって -. (横山俊夫・藤井譲治・遊磨正秀・川那部浩哉編)
127-150. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 916) 川那部浩哉 (2000) 温暖化防止へG 8 環境相会合: 先進国のエゴ捨てよ. 朝日新聞
2000/3/22.
- 917) 川那部浩哉 (2000) 島根大学汽水域研究センター外部評価アンケート (回答) 島根大
学汽水域研究センター外部点検・評価報告書 16. 島根大学汽水域研究センター, 松江.
- 918) 川那部浩哉・高橋裕・ヴァルガ=ヤーノシュ・芦田和男・嘉田由紀子 (2000) パネル
ディスカッション「21世紀の川と湖」シンポジウム21世紀の川と湖 - ドナウ川と琵琶
湖・淀川 - 記録集, 28- 36. 滋賀県・(財)琵琶湖・淀川水質保全機構, 大津・大阪.
- 919) 川那部浩哉 (2000) 生物の多様性 - とくに関係の多様性について. 人環フォーラム,
8: 34-39. 京都大学大学院人間・環境学研究科, 京都.
- 920) Kawanabe, H. ed. (2000) Annual Report 1999 under Creative Basic Research Program, An

- Integrated Study on Biodiversity Conservatiuon under Global Change and Bio-inventory Management System. iv+iv+118 pp. Center for Ecological Research, Kyoto University, Otsu.
- 921) Kawanabe, H. (2000) Preface. Annual Report 1999 under Creative Basic Research Program, An Integrated Study on Biodiversity Conservatiuon under Global Change and Bio-inventory Management System edited by Kawanabe, H., i-ii.
- 922) 川那部浩哉・松田芳夫・直江延明・石田徳・三苫善八郎・小林公明・門馬淑子 (2000) これからの地域開発と合意形成. 筑後川水源地域と利用者を結ぶ21世紀！循環型流域社会をどう生きるか, 85-120. 全国ダムの町フォーラム九重町実行委員会・全国水問題協議会, 東京.
- 923) 北川泉・坂本和昭・小宮徹・高橋裕・川那部浩哉 (2000) 21世紀！循環型社会をどう生きるか. 筑後川水源地域と利用者を結ぶ21世紀！循環型流域社会をどう生きるか 159-191. 全国ダムの町フォーラム九重町実行委員会・全国水問題協議会, 東京.
- 924) 川那部浩哉 (2000) これからの県博協. しが県博協だより, 12: 14.
- 925) 川那部浩哉 (2000) 現代の言葉：「世界湖沼会議」をみんなで作り上げるために. 京都新聞 夕刊 2000/4/6.
- 926) 椎名誠・川那部浩哉 (2000) あるく魚が琵琶湖を語る. うみんど 14: 2-3.
- 927) 川那部浩哉 (2000) 「ほねほね化石・発見ものがたり」の発刊にあたって. 博物館うらおもて：ほねほね化石・発見ものがたり（ほねほね化石・発見ものがたり出版グループ）1. 琵琶湖博物館, 草津.
- 928) 川那部浩哉 (2000) 魚々食紀 - 古来、日本人は魚をどう食べてきたか（平凡社新書, 041）214 pp. 平凡社, 東京.
- 929) 川那部浩哉 (2000) 現代の言葉：「熱帯」と「寒帯」のヨーロッパで. 京都新聞 夕刊 2000/6/1.
- 930) 川那部浩哉 (2000) 川の生態系を考える. 第15回全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会記録集, 39-50. 全国水環境保全市町村連絡協議会・中村市, 中村.
- 931) 川那部浩哉 (2000) リレー連載いのちの叫び23 いのちは「あいだ」にあり. 機 2000(6): 25. 藤原書店, 東京.
- 932) 川那部浩哉 (2000) 楽しくて大切な琵琶湖. 高等研<親子>サンエンス・スクール'99 君の不思議を探そう - 楽しくて大切な琵琶湖 -, 2-5. 国際高等研究所, 木津町.
- 933) 川那部浩哉・和田英太郎・戸田孝・嘉田由紀子 (2000) フリーディスカッション. 高等研<親子>サンエンス・スクール'99 君の不思議を探そう - 楽しくて大切な琵琶湖 - 29-34. 国際高等研究所, 木津町.
- 934) 虫明功臣・川那部浩哉・大熊孝・布村明彦 (2000) 21世紀へ向けての河川や水環境の長期的展望パネル=ディスカッション. 国際シンポジウム：グローバル時代を迎える水と河川 - 21世紀半ばへ向けての日本の河川のヴィジョン - （高橋裕編） 110-132. "グローバル時代を迎える水と河川" 実行委員会, 東京.
- 935) 斎藤宏保・高橋裕・川那部浩哉・松井三郎 (2000) 総合討論会：21世紀へ向けての日本の水と河川. 国際シンポジウム：グローバル時代を迎える水と河川 - 21世紀半ばへ向けての日本の河川のヴィジョン - （高橋裕編） 215-253. "グローバル時代を迎える水と河川" 実行委員会, 東京.

- 936) 川那部浩哉 (2000) 美味しい鮎鮠を食べるためにも. ひとと自然の共生：蘇みがえる内湖, 3. 津田内湖を考える市民会議, 近江八幡.
- 937) 石毛直道・川那部浩哉・嘉田由紀子 (2000) 食いしん坊館長が二人寄ると・・・ うみんど 15: 2-3.
- 938) 川那部浩哉 (2000) はじめに. 第8回企画展湖の魚・漁・食：淡海あれこれ商店街（滋賀県立琵琶湖博物館（中藤容子）編）2-3. 琵琶湖博物館, 草津.
- 939) 川那部浩哉・川村一郎 (2000) 異見卓見：「第1回」の初心に帰る秋「里帰り会議」へ本格準備. 京都新聞 2000/7/21.
- 940) 山本晃一・高橋俊守・戸田祐嗣・倉本宣・加藤和弘・川那部浩哉・三島次郎・木下武雄・佐々木寧・土屋十囀 (2000) 河川における自然生態系の評価手法に関する研究. 河川整備基金助成事業指定課題中間報告会報告書, 106-132. 河川環境管理財団, 東京.
- 941) 沼田真・河合雅雄・日高敏隆・濱田隆士・川那部浩哉・松井孝典・江田稔編 (2000) ビジュアル科学講座生命の地球. 全13巻. 200 p., 192p, 192 p., 192 p., 192p., 192 p., 192 p., 192 p., 124+100 p., 6 videos. 三友社出版, 東京.
- 942) Rossiter, A. and Kawanabe, H. ed. (2000) Ancient Lakes: Biodiversity, Ecology and Evolution (Advances in Ecological Research, 31) 48+624 pp. Academic Press, London, San Diego, etc.
- 943) Rossiter, A. and Kawanabe, H. (2000) Preface. Ancient Lakes: Biodiversity, Ecology and Evolution (Advances in Ecological Research, 31) edited by Rossiter, A. and Kawanabe, H., 12-16. Academic Press, London, San Diego, etc.
- 944) 川那部浩哉・桑原精喜・高場英二・西村久徳・望月達也・吉村勝徳・中山堯 (2000) 川辺川：アユ味わい語る. 朝日新聞（西部）2000/9/5.
- 945) 北洋司・川那部浩哉 (2000) クジラと人びとのかかわり. うみんど, 16: 2-3.
- 946) 川那部浩哉 (2000) はしがき. ワークショップ&シンポジウム 博物館を評価する視点（琵琶湖博物館・滋賀県博物館ネットワーク協議会（責任者：布谷知夫・芦谷美奈子）編）琵琶湖博物館研究調査報告, 17: 3-5.
- 947) 川那部浩哉 (2000) 生物学的多様性（生物多様性）, そのほか - 関係の多様性を中心にして -. 京都府生物教育会誌, 36: 19-36.
- 948) 吉良竜夫・川那部浩哉 (2000) 10周年記念対談. 生態学琵琶湖賞10年の軌跡, 3-8. 滋賀県, 大津.
- 949) 川那部浩哉編 (2000) 博物館を楽しむ - 琵琶湖博物館ものがたり（岩波ジュニア新書, 360）8+228+8 pp. 岩波書店, 東京.
- 950) 川那部浩哉 (2000) まえがき. 博物館を楽しむ - 琵琶湖博物館ものがたり（川那部浩哉編）3-4. 岩波書店, 東京.
- 951) 川那部浩哉 (2000) 関係の美しさをつたえ, ともにつくりあげるために. 博物館を楽しむ - 琵琶湖博物館ものがたり（川那部浩哉編）210-224. 岩波書店, 東京.
- 952) 川那部浩哉 (2000) あとがき. 博物館を楽しむ - 琵琶湖博物館ものがたり（川那部浩哉編）225-228. 岩波書店, 東京.
- 953) 川那部浩哉・平山伸一 (2000) 開発優先, 車中心の社会考え直すとき. 京都民報 2000/10/29.

- 954) 川那部浩哉 (2000) 研究最前線からのメッセージ：琵琶湖にすんでいるおもしろい習性の魚たち. ナショナル ジオグラフィック ワールド日本版, 2000(11): 31.
- 955) 川那部浩哉 (2000) ポルトガルにて. pro natura ニュース 10: 1. 自然保護助成基金, 東京.
- 956) 川那部浩哉 (2000) 「生物多様性科学国際計画」とは. 生物多様性科学の現状と展望 - 日本学術会議 DIVERSITAS シンポジウム・記録 (生態・環境生物学研究連絡委員会編) 6-15. 日本学術会議 DIVERSITAS 小委員会, 東京.
- 957) 戸塚績・戸田正憲・岩槻邦男・川那部浩哉ほか (2000) 総合討論. 生物多様性科学の現状と展望 - 日本学術会議 DIVERSITAS シンポジウム・記録 (生態・環境生物学研究連絡委員会編) 55-60. 日本学術会議 DIVERSITAS 小委員会, 東京.
- 958) 川那部浩哉 (2000) 滋賀県立琵琶湖博物館第 8 回企画展「湖の魚・漁・食 淡海あれこれ商店街」: 館内外の協力のもと来場者の声にも耳を傾けつつ柔軟な姿勢で展示を考える研究最前線からのメッセージ. tansei.net, 01: 9-10. 丹青社, 東京.
- 959) 川那部浩哉 (2000) 歴史的な生命 (いのち) の関係の賑わいを. PREC Study Report 6: 2-5. プレック研究所, 東京.
- 960) 川那部浩哉 (2000) ごあいさつ. 滋賀県立琵琶湖博物館年報 4: 1.
- 961) 川那部浩哉 (2000) はしがき. 生活再現の応用展示学的研究 - 博物館のエスノグラフィーとして -. (嘉田由紀子・古川彰編). 琵琶湖博物館研究調査報告 16: 1-2.
- 962) 川那部浩哉 (2000) おわりに・「生命文化複合体」としての古代湖. 古代湖の考古学. (松井章・牧野久実編) 192-195. クバプロ, 東京.
- 963) 川那部浩哉 (2000) "Encyclopedia of Biodiversity" edited by Simon A. Levin を推薦する. BOOK NEWS from MARUZEN 4-2000-016-8: 4. 丸善, 東京.
- 964) Kawanabe, H. (2000) Preface. Lake Baikal: A mirror in time and space for understanding global change processes (ed. by Minoura, K.) v-vi. Elsevier, Amsterdam.

KOGA, Tsunenori 古賀庸憲

- 1) Koga, T.; Murai, M., Goshima, S. & Poovachiranon, S. (2000) Underground mating in the fiddler crab *Uca tetragonon*: the association between female life history traits and male mating tactics. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 248: 35-52.

KOHYAMA, Takashi 甲山隆司

- 1) Kohyama, T. and Takada, T. (1998) Recruitment rates in forest plots: Gf estimates using growth rates and size distributions. J. Ecol. 86: 633-639.
- 2) 甲山隆司 (1998) 生物多様性の空間構造と生態系における機能. In: 生物多様性とその保全. (岩波講座 地球環境学 5) (ed. by 井上民二; 和田英太郎) pp. 65-96. 岩波書店, 東京.
- 3) Kohyama, T.; Suzuki, E., Aiba, S. and Seino, T. (1999) Functional differentiation and positive feedback enhancing plant biodiversity. In: Biology of Biodiversity. (ed. by Kato, M.) pp. 179-191. Springer, Tokyo.

- 4) Takahashi, K. and Kohyama, T. (1999) Size-structure dynamics of two conifers in relation to understory dwarf bamboo: a simulation study. *J. Veg. Sci.* 10: 833-842.
- 5) Kubo, T.; Kohyama, T., Potts, M.D. and Ashton, P.S. (2000) Mortality rate estimation, when inter-census intervals vary. *J. Trop. Ecol.* 16: 753-756.

KUROIWA, Sumio 黒岩澄雄

- 1) Iwasa, K.; Imura, N., Sasaki, C., Kuroiwa, S., Takahashi, Y. and Kitayama, M. (2000) Survey of the Shimanoto river water quality- short communication from the society of southern Ehime nature observation. *愛媛女子短期大学紀要* 11: 89-92.

MINOURA, Koji 箕浦幸治

- 1) Horiuchi, K.; Minoura, K., Hoshino, K., Oda, T., Nakamura, T. and Kawai, T. (2000) Paleoenvironmental history of Lake Baikal during the last 23,000 years. *Paleogeogr. Paleoclimatol. Paleoecol.* 157: 95-108.
- 2) Minoura, K.; Imamura, F., Kuran, U., Nakamura, T., Papadopoulos, G. A., Takahashi, T. and Yalciner, A. C. (2000) Discovery of Minoan tsunami deposits. *Geology* 28: 59-62.
- 3) 尾田武文; 箕浦幸治, 藤村千鶴, 中村俊夫, 河合崇欣 (2000) バイカル湖集水域における過去25万年間の植生変遷. *日本花粉学会誌* 46: 1-12.
- 4) 谷口敦行; 箕浦幸治 (2000) 紀伊半島南部における中期中新世熱水活動. *資源地質* 50: 1-11 .
- 5) 菅原大助; 箕浦幸治, 今村文彦 (2000) 西暦869年貞観津波による堆積作用とその数値復元. *津波工学研究* 17: 15-27.
- 6) Minoura, K. (ed.) (2000) *Lake Baikal: A mirror in time and space for understanding global change processes.* 337 pp. Elsevier Science, Amsterdam.
- 7) 箕浦幸治 (2000) 生命の地球 - 第6巻 : 食う食われるの生物たち. In: *地球環境の変化と生態系の破壊.* (ed. by 沼田 真; 江田 稔, 河合雅雄, 川那部浩哉, 濱田隆士, 日高敏隆, 松井孝典) pp. 114-121. 三友出版, 東京.
- 8) Minoura, K. and Sugawara, D. (2000) Tectonic implication of the 869 Jogan Tsunami. *Proceedings of the Workshop on Sedimentological Study for Historical Tsunamis.* Sendai, Japan, August, 25-26, 2000, 15-16.
- 9) Kono, Y.; Murakami, F., Imamura, F. and Minoura, K. (2000) Historical tsunami that occurred 1,100 years ago and underwater diving research. *Proceedings of the 4th International Conference on Hydro-Science and -Engineering.* Seoul, Korea, September, 26-29, 2000, PAP96, 1-10.

- 1) Morino, H. (2000) Maintenance of biodiversity in littoral communities of Lake Baikal. Annual Report 1999 under Creative Basic Research Program: An integrated study on biodiversity conservation under global change and bio-inventory management system. (ed. by Kawanabe H.) Center for Ecological Research, Kyoto University pp. 25-28.
- 2) Mashiko, K.; R. Kamal'tynov, Morino, H. & D. Yu. Sherbakov (2000) Genetic differentiation among gammarid (*Eulimnogammarus cyaneus*) populations in Lake Baikal, East Siberia. Arch. Hydrobiol. 148(2): 249-261.
- 3) Morino, H.; R. M. Kamal'tynov, Nakai, K. & Mashiko, K. (2000) Phenetic analysis, trophic specialization and habitat partitioning in the Baikal amphipod genus *Eulimnogammarus* (Crustacea). Advances in Ecological Research 31: 355-376. Academic Press.
- 4) 森野 浩 (2000) 小田深山の陸生ハマトビムシ類について. 小田深山の自然 I: 845-846.
- 5) 森野 浩 (2000) 茨城県の水環境と生物の多様性. In: 茨城の水環境. (ed. by 茨城の水環境編集委員会 (茨城大学)) pp. 64-71.
- 6) 森野 浩 (2000) ヨコエビ類にみるバイカル湖の生物多様性創出と維持機構. エコフロンティア 5: 27-34.
- 7) 森野 浩 (2000) バイカルヨコエビ類の系統と進化. 遺伝 54(12): 25-30.

- 1) Nagamitsu T.; Yoneda, M., Mukose, T. (2000) Flower switching during consecutive foraging trips of *Bombus ardens* workers (Hymenoptera: Apidae). Entomological Science 3: 57-63.
- 2) 永光輝義 (2000) マレーシアの低地フタバガキ林におけるハナバチによる送粉. 昆虫と自然 35: 9-13.
- 3) 永光輝義 (2000) 択伐が熱帯の樹木の種子生産と近親交配に及ぼす影響. フタバガキ科における最近の研究成果. 北方林業 52: 107-110.

- 1) Angara, E. V.; Nakagoshi, N., Nehira, K. (2000) Twenty-one years post-fire succession in a small watershed on Etajima Island, Hiroshima Prefecture, Southwestern Japan. Journal of International Development and Cooperation 6: 177-196.
- 2) 日笠 睦; 中越信和 (2000) ダム事業アセスメントのための河辺植物群落の空間構造解析手法の検討. 第14回環境情報科学論文集: 237-242.
- 3) Iiyama, N.; Nehira, K., Nakagoshi, N. (1999) Landscape change of terrace paddies in the rural Japan. Acta Universitatis Carolinae Environmentalica 13: 69-76.
- 4) Kameyama, Y.; Isagi, Y., Naito, K., Nakagoshi, N. (2000) Microsatellite analysis of pollen flow

- in *Rhododendron metternichii* var. *hondoense*. Ecological Research 15: 263-269.
- 5) Kang, S.-H.; Nakagoshi, N., Ko, S.-C. (2000) Resources of woody plant in Taejon area, Korea. Plant Resources 3: 79-89.
 - 6) Kang, S.-H.; Nakagoshi, N., Ko, S.-C. (2000) Changes of land use pattern due to urbanization in Taejon, Korea. Korean Journal of Environment and Ecology 14: 154-161.
 - 7) Kang, S.-H.; Nakagoshi, N., Ko, S.-C. (2000) Distribution of resource plants in Mt. ManRoi (ChungBuk), Korea. Plant Resources 3: 152-162.
 - 8) 郡 麻里; 鎌田磨人, 岡部健士, 中越信和 (2000) 吉野川河道内の砂州上におけるアキグミ群落の分布状況と立地特性. 環境システム研究論文集 28: 353-358.
 - 9) Manabe, T.; Naito, K., Nakagoshi, N. (2000) Stand structure and regeneration characteristics of major woody species in a secondary evergreen broad-leaved forest, in the suburban Kyushu, Japan. Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.19: 117-128.
 - 10) Nakagoshi, N.; Kondo, T., Isozaki, Y. (2000) Conservation of ecosystem and biodiversity on highways. In: 10th Road Engineering Association of Asia and Australasia Conference. (ed. by REAAA) pp. 1-11. REAAA, Tokyo.
 - 11) Nakagoshi, N. (2000) The influence of forest fire in Japanese landscapes. The Ecological Role of Fire, the Ecological Society of Korea 2000 Year International Symposium: 29-42. The Ecological Society of Korea, Seoul.
 - 12) Nakagoshi, N.; Ohta, Y. (2000) Predicting future landscapes of islands in the Seto Inland Sea, Japan. In: Landscape Perspectives of Land Use Changes (ed. by Ü. Mander; R. H. G. Jongman) pp. 83-106. WIT Press, Southanpton.
 - 13) 中越信和 (2000) 景観生態学 : 空間の入ったエコロジーの展開. 日本生態学会誌 50: 261-267.
 - 14) 中越信和; 石井亀与勢, 橋井輝男 (2000) 韓国洛東江の水質汚染とその回復. 国際協力研究誌 6: 239-254.
 - 15) 中越信和; 越智俊之 (2000) 西中国山地における1955-1995年間の森林型の変遷. 高原の自然史 5: 101-124.
 - 16) 中越信和; 日笠 睦 (2000) 景観生態学の視点によるミティゲーションのありかた. In: 日本におけるミティゲーション・バンキングのフィジビリティに関する研究. (ed. by 森本幸裕) 平成11年度科学研究費補助金基盤研究C (1) 研究成果報告書 pp. 63-71. 堺.
 - 17) 中越信和 (2000) 道路緑化がはたす地球環境安定化への貢献. 道路緑化技術資料 5: 87-94. (社) 道路緑化保全協会, 東京.
 - 18) Naito, K.; Nakagoshi, N. (2000) Human impact on the distribution and population structure of *Dianthus japonicus* Thunb. (Caryophyllaceae) on a coastal cliff. Hikobia 13: 235-240.
 - 19) 越智彩子; 池上佳志, 中越信和 (2000) 都市化にともなう景観構造変化のパッチレベルにおける分析. ランドスケープ研究 63(5): 775-778.
 - 20) 谷本 茂; 中越信和, 根平邦人 (2000) 都市中小河川における多自然型水際植生の初期二次遷移. 環境システム研究論文集 28: 241-246.
 - 21) Yamaba, A.; Nakagoshi, N. (2000) Community-based management of rural pine forests in a suburban village of Hiroshima Prefecture, western Japan. Journal of Forest Research 5: 237-242.

- 1) 西村 登 (2000) 水生動物からみた但馬地方諸河川の水質の現状 (3) - 1993年と1998年および1960～1999年頃との比較 - . 関西自然保護機構会誌 22(1): 29-40.
- 2) 西村 登 (2000) 斐伊川水系 (淡水域) の生態系と底生動物. 斐伊川水系の底生動物. 33-42. 建設省中国地方建設局出雲工事事務所.
- 3) 西村 登 (2000) 研究会20年のあゆみ. 兵庫陸水生物 51・52: 1-2.
- 4) 信本 励・西村 登 (2000) 兵庫県の河川の概況. 兵庫陸水生物 51・52: 131-140.
- 5) 富樫繁春・西村 登 (2000) 但馬地方の河川のチョウセンコツブムシ. 兵庫陸水生物 51・52: 215-221.

- 1) Ohtaka, A. (2000) Aquatic Oligochaeta in the Ozegahara Mire, Central Japan. Species Diversity 5: 39-52.
- 2) Ohtaka, A.; D. I. Hartoto and R. Usman (2000) Preliminary study on freshwater Oligochaeta in Indonesia. Rep. Suwa Hydrobiol. 12: 29-38.
- 3) Iwakuma, T.; Ohtaka, A., D. I. Hartoto, S. H. Limin, I. Torang, S. Jaya and Tanaka, N. (2000) Preliminary study on limnological features of lakes and rivers in the peat swamp area of Central Kalimantan. Rep. Suwa Hydrobiol. 12: 81-88.
- 4) 大高明史; 齋藤捷一 (2000) 体の大きさから食物連鎖を考える - 湖沼のプランクトン調査からの考察 - . 弘前大学教育学部教科教育研究紀要クロスロード 1: 1-7.
- 5) Gelder, S. R. and Ohtaka, A. (2000) Description of a new species and a redescription of *Cirrodrilus aomorensis* (Yamaguchi, 1934) with a detailed distribution of the branchiobdellidans (Annelida: Clitellata) in northern Honshu, Japan. Proc. Biol. Soc. Wash. 113: 633-645.
- 6) Gelder, S. R. and Ohtaka, A. (2000) Redescription and designation of lectotypes of the North American *Cambarincola okadai* Yamaguchi, 1933 (Annelida: Clitellata). Proc. Biol. Soc. Wash. 113: 1087-1095.

- 1) Okuda, N. (2000) Interspecific differences in male cannibalistic behavior between two sympatric cardinalfishes (Pisces: Apogonidae). J. Ethol. 18: 5-10.
- 2) 奥田 昇 (2000) せめぎあう雄と雌 - 子育てをめぐる水面下のかけひき - . 遺伝 54(6): 19-24.

- 1) 大竹昭郎 (2000) 生態学からみた遺伝子組み換え作物. 日本の科学者 35: 170-174.

- 1) Suzuki, H.; Kumagai, H., Oohashi, K., Sakamoto, K., Inubushi, K., Enomoto, S., Ambe, F. (2000) Uptake of 15 trace elements in arbuscular mycorrhizal marigold measured by the multitracer technique. Soil Sci. Plant Nutr. 46: 283-289.
- 2) Sakamoto, K.; Hodono, N. (2000) Turnover time of microbial biomass carbon in Japanese upland soils with different textures. Soil Sci. Plant Nutr. 46: 483-490.
- 3) Shrihari, P.C.; Sakamoto, K., Inubushi, K., Akao, S. (2000) Interaction between super-nodulating and non-nodulating mutants of soybean (*Glycine max* (L.) Merr.) and two mycorrhizal fungi. Mycorrhiza 10: 101-106.
- 4) 袴田共之; 波多野隆介, 木村真人, 高橋正通, 坂本一憲 (2000) 地球温暖化ガスの土壌生態系との関わり (講座) 1. 二酸化炭素と陸上生態系. 土肥誌 71: 263-274 .
- 5) 坂本一憲 (2000) アーバスキュラー菌根菌をめぐる最近の話題. 植物防疫 54: 506-508 .
- 6) 坂本一憲 (2000) 第7章 地中における微生物と化学. In: 地下水水質の基礎 - 名水から地下水汚染まで - . (ed. by 日本地下水学会) pp.97-112. 理工図書, 東京 .

- 1) 久保満佐子; 島野光司, 崎尾 均, 大野啓一 (2000) 溪畔域におけるカツラ実生の発芽サイトと定着条件. 日本林学会誌 82(4): 349-354.
- 2) 崎尾 均 (2000) 水辺林 (溪畔林) の現在・過去・未来. In: 水系でつながる森林・農地・湖沼・海洋の生態系. (農林水産叢書) 32: 6-19. 農林水産奨励会, 東京.
- 3) 崎尾 均 (2000) 水辺林 (溪畔林) の動態、生態的機能および保全・再生技術. 水利科学 44(5): 31-54.
- 4) 崎尾 均 (共著) (2000) 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花. 離弁花 1. 山と溪谷社, 東京.
- 5) 崎尾 均 (共著) (2000) 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花. 離弁花 2. 山と溪谷社, 東京.
- 6) 崎尾 均 (2000) 溪流攪乱によって更新する溪畔林. JISE Newsletter 30: 6-7.
- 7) 崎尾 均 (2000) 溪畔林再生の技術と問題点. 第9回溪畔林研究会 (京都大学生態学研究センター公募研究会) 講演要旨集: 4-7.

- 1) Sakurai, K.; Ninomiya, I., Harada, K., Kendawang, J. J., Lee, H. S., Ogino, K. (2000) Paper 2. Tree planting as ecosystem initiation on land degraded by shifting cultivation at the Bakam Experimental Reserve, Sarawak. In: Workshop for Forest Ecosystem Rehabilitation. (ed. by Ogino, K.; Lee, H. S., Kendawang, J. J.) pp. 5-17. Forest Department Sarawak, Malaysia.
- 2) Ninomiya, I.; Sakurai, K., Harada, K., Kendawang, J. J., Lee, H. S., Ogino, K. (2000) Paper 3. Island and corridor planting system in ecosystem rehabilitation. -A proposal. In: Workshop for Forest Ecosystem Rehabilitation. In: Workshop for Forest Ecosystem Rehabilitation. (ed. by Ogino, K.; Lee, H. S., Kendawang, J. J.) pp. 18-21. Forest Department Sarawak, Malaysia.
- 3) Ishizuka, S.; Sakurai, K., Shirahama, T., Sabang, J., Kendawang, J. J., Lee, H. S. (2000) Paper 6. Comparative studies of soil properties of an undisturbed tropical rain forest and an abandoned shifting cultivation land in Sarawak. In: Workshop for Forest Ecosystem Rehabilitation. (ed. by Ogino, K.; Lee, H. S., Kendawang, J. J.) pp. 30-51. Forest Department Sarawak, Malaysia.
- 4) Okamura, K.; Sakurai, K., Iwasaki, K., Nara, K., Hogetsu, T., Ripot, S., Jiwan, D. J., Kendawang, J. J., Lee, H. S., Ogino, K. (2000) Paper 12. Propagation of the indigenous tree seedlings utilizing ectomycorrhizas. In: Workshop for Forest Ecosystem Rehabilitation. (ed. by Ogino, K.; Lee, H. S., Kendawang, J. J.) pp. 105-119. Forest Department Sarawak, Malaysia.
- 5) Taniguchi, S.; Yamagata, N., Sakurai, K. (2000) Cadmium adsorption on hydroxyaluminosilicate - montmorillonite complex as influenced by oxalate and citrate. Soil Sci. Plant Nutr. 46: 315-324.
- 6) Ishizuka, S.; Sakurai, K., Sabang, J., Kendawang, J. J., Lee, H. S. (2000) Soil characteristics of an abandoned shifting cultivation land in Sarawak, Malaysia. Tropics 10: 251-263.

- 1) 杉山幸丸 (2000) アフリカ僻地に暮らす - 村の生活と思考 - . 人間文化 15: 51-69.
- 2) 杉山幸丸 (2000) 動物の繁殖・個体群動態と人口問題. 日本医師会雑誌 123: 1565-1568.
- 3) 杉山幸丸 (2000) 類人猿リハビリテーション計画の問題. 霊長類研究 16: 59-62.
- 4) 杉山幸丸編 (2000) 霊長類生態学. 498pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 5) 杉山幸丸 (2000) 霊長類の野外研究で、いま何が問題になっているか. In: 霊長類生態学. (ed. by 杉山幸丸) pp.1-11. 京都大学学術出版会, 京都.
- 6) 杉山幸丸 (2000) 日本のサル学を振り返って、これからの道を探る. In: 霊長類生態学. (ed. by 杉山幸丸) pp.451-472. 京都大学学術出版会, 京都.

- 1) 只木良也 (2000) 環境も木材も. 開かれた国民の森林に向けて10. 国有林だより 701: 5.

- 2) 只木良也 (2000) 環境資源としての里山. 緑化工技術 21: 23-31.
- 3) 只木良也 (2000) 森林の環境保全的働き, 特に水源かん養. 月刊浄化槽 2000-2: 13-21.
- 4) 只木良也 (2000) 健康と快適性の森 - 21世紀に向けて - . 森林都市 28: 17-21.
- 5) 只木良也 (2000) 森林の効用, どの程度解明されたか. 森林科学 29: 61-64.
- 6) 只木良也; 河口順子, 小松泰彦, 池上博身 (2000) 豊田市郊外里山地域における植物の現存量・炭素固定量の推定と水平的分布表示の試み. 環境科学会誌 13: 421-426.
- 7) 只木良也 (2000) 我々を守る森林を我々が守る - 木材も環境も - . 現代林業 411: 46-51.
- 8) 只木良也 (2000) 国有林 森の巨人たち100選. 寒蘭 83: 89-93.
- 9) 只木良也 (2000) 人々の営みと森林 - マツ林盛衰記. PREC Study Report 6: 12-21.
- 10) 石井 洋; 只木良也 (2000) 名古屋大学構内広葉樹二次林の構造と現存量. 名古屋大学森林科学研究 19: 197-206.
- 11) 河口順子; 只木良也 (2000) 名古屋大学構内広葉樹二次林のリターフォール量. 名古屋大学森林科学研究 19: 207-214.

UEDA, Keisuke 上田恵介 _____

- 1) Hamao, S. & Ueda, K. (2000) Simplified song in an island population of the bush warbler *Cettia diphone*. J. Ethol. 18: 53-57. [Bush warbler, Song, Island population, Social system]

WATANABE, Mamoru 渡辺守 _____

- 1) Watanabe, M., Bon'no, M. & Hachisuka, A. (2000) Eupyrene sperm migrates to spermatheca after apyrene sperm in the swallowtail butterfly, *Papilio xuthus* L. (Lepidoptera: Papilionidae). J. Ethol. 18: 91-99.
- 2) Watanabe, M. & Taguchi, M. (2000) Behavioral protandry in the damselfly, *Mnais pruinosa costalis* Selys (Zygoptera: Calopterygidae) in relation to territorial behavior. Odonatologica 29: 307-316.
- 3) Nakanishi, Y., Watanabe, M. & Ito, T. (2000/1996) Differences in lifetime reproductive output and mating frequency of two female morphs of the sulfur butterfly, *Colias erate* (Lepidoptera: Pieridae). Journal of Research on the Lepidoptera 35: 1-8.
- 4) 渡辺 守 (2000) アゲハ類の個体群動態. In: 蝶の自然史：行動と生態の進化学. (ed. by 大崎直太) pp. 199-213. 北海道大学図書刊行会.

WATANABE, Naoshi C. 渡辺直 _____

- 1) Watanabe, N. C. and Ohkita, A. (2000) Life cycle and synchronization of nymphal development of the mayfly *Ephoron shigae* in Japan (Ephemeroptera: Polymitarcyidae). Aquatic Insects 22: 108-121.

- 2) Watanabe, N. C.; Harada, S. and Komai, Y. (2000) Long-term recovery from mine drainage disturbance of a macroinvertebrate community in the Ichi-kawa River, Japan. *Hydrobiologia* 429: 171-180.
- 3) Nishino, M. and Watanabe, N. C. (2000) Evolution and endemism in Lake Biwa, with special reference to its gastropod mollusc fauna. *Advances in Ecological Research* 31: 151-180.

YOSHIOKA, Takahito 吉岡崇仁

- 1) Anawar, H. M.; Safiullah, S., Yoshioka, T. (2000) Environmental exposure assessment of chromium and other tannery pollutants at Hazaribagh area, Dhaka, Bangladesh, and health risk. *Journal of Environmental Chemistry* 10: 549-556. [地下水, バングラデシュ, クロム汚染]
- 2) Ueda, S.; Go, C.-S., Yoshioka, T., Yoshida, N., Wada, E., Miyajima, T., Sugimoto, A., Boontanon, N., Vijarnsorn, P., Boonprakub, S. (2000) Metabolisms of CO₂, CH₄, and N₂O in a tropical coastal swamp system in southern Thailand: implication from dissolved gas and nutrient distributions. *Biogeochemistry* 49: 191-215. [温室効果気体, 栄養塩, タイ国, 熱帯湿性林]
- 3) 吉岡崇仁 (2000) 地球環境変化に対する陸水の応答 - 集水域研究の重要性 - . *陸水学雑誌* 61: 95-100. [集水域, 温暖化, 物質循環, 溶存有機物, 栄養塩]
- 4) 吉岡崇仁 (2000) 安定同位体生態学. In: *水と生命の生態学* (ed. by 日高敏隆) pp. 176-187. 講談社, 東京. [安定同位体, 食物連鎖, 水界生態学]
- 5) 吉岡崇仁 (2000) 安定同位体比による食物連鎖の解析. *水* 42: 22-28. [安定同位体, 食物連鎖, 生態系解析]
- 6) 花里孝幸; 吉岡崇仁 (2000) 陸水学における温暖化研究の現状と展開. *陸水学雑誌* 61: 21-23. [温暖化, 地球環境変化, 陸水研究]

生態研セミナー スペシャル

2000年1月7日

「担子菌類の菌体の炭素・窒素安定同位体自然存在比とその生理生態学的意味」

"¹³C and ¹⁵N natural abundance patterns of the fungal body in basidiomycetes and their ecophysiological implications"

高津文人（京大生態学研究センター）

Ayato Kohzu (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「植物の斜面上での分布における土壌からの水分吸収の重要性」

"Importance of water uptake to distribution patterns of plants on slopes"

柳沢 直（京大生態学研究センター）

Nao Yanagisawa (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2000年1月19日

"The genetic and developmental basis of speciation in *Drosophila*"

Hope Hollocher (Department of Ecology and Evolutionary Biology, Princeton University)

第123回 生態研セミナー

2000年1月21日

「ミツバチ類の社会性行動の発現と認識物質&認識メカニズム」

"Social behaviors in honey bee society: recognition and expression"

笹川浩美（科学技術振興事業団 (JST) さきがけ研究21 (PRESTO) 「知と構成」領域；農林水産省 蚕糸・昆虫農業技術研究所）

Hiromi Sasagawa (PRESTO, JST ; National Institute of Sericultural and Entomological Sciences (NISES))

「防衛戦略の多様性による植物の多種共存」

"Coexistence of plant species through diversity of defense strategy"

山村則男（京大生態学研究センター）

Norio Yamamura (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2000年3月14日

「ショウジョウバカマ集団の遺伝構造」

"Genetic structure of *Heloniopsis orientalis* populations"

宮崎由佳（京大生態学研究センター）

Yuka Miyazaki (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第124回 生態研セミナー

2000年4月21日

「水域生態系における微生物食物網の構造と機能」

"The microbial food web in aquatic ecosystems : structure and function"

永田 俊（京大生態学研究センター）

Toshi Nagata (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「パッチ状資源を利用するクマノミ類2種の共存機構：社会構造・繁殖戦略からのアプローチ」
"Reproductive strategies and coexistence of two anemonefishes which utilize same patchy resources"
服部昭尚（滋賀大学教育学部システム情報）
Akihisa Hattori (Faculty of Liberal Arts and Education, Shiga University)

第125回 生態研セミナー

2000年5月19日

「救急法（一般）実践講習会（講義、実習見学、実施訓練）」
"Lecture and exercise on first aid (General rescue course by the JRCs)"
講習科目：1．赤十字救急法について
2．心肺蘇生法
3．傷と止血

講師：赤十字救急法指導員（滋賀県安全法指導員協議会の会員）
主催：日本赤十字社滋賀県支部、京都大学生態学研究センター

第126回 生態研セミナー

2000年6月16日

「遊牧グレイジングとモンゴル草原の持続的利用、種多様性」
"Sustainable use and species diversity of Mongolian herbosa in relation to nomadic grazing"
藤田 昇（京都大学生態学研究センター）
Noboru Fujita (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「シベリアタイガ林における水と炭素循環の観測」
"Observation on water and carbon cycles in Siberian Taiga"
杉本敦子（京都大学生態学研究センター）
Atsuko Sugimoto (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2000年9月1日

「半着生イチジク群集内でのニッチ分割 熱帯の生物多様性におけるパラドクス？」
"Niche differentiation in a community of hemi-epiphytic figs (*Ficus* spp.) A paradox for tropical biodiversity?"
Rhett Daniel Harison (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「フタバガキ科巨大高木の一斉開花とその後の成長に対する資源投資」
"Resource allocation for general flowering and following vegetative growth of dipterocarp species"
市栄智明（京都大学生態学研究センター）
Tomoaki Ichie (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第127回 生態研セミナー

2000年9月22日

「葉の光合成の生態生理学」
"Ecophysiology of leaf photosynthesis"
寺島一郎（大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻）
Ichiro Terashima (Department of Biology, Graduate School of Science, Osaka University)

「価値観のモデルが生態系サービス（環境価値）の評価にはたす役割」
"The importance of modelling the sense of values in understanding the value of ecosystem services"
谷内茂雄（京都大学生態学研究センター）
Shigeo Yachi (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2000年10月10日

"Evolution of language"

Martin Norwak (Ecology and Evolutionary Biology, Princeton University)

第128回 生態研セミナー

2000年10月20日

「生態系の修復」

"Rehabilitation of ecosystems"

櫻井克年 (高知大学農学部)

Katsutoshi Sakurai (Faculty of Agriculture, Kochi University)

「南ボルネオでの淡水魚類による三日月湖の利用形態」

"Fish community in an oxbow lake in south Borneo"

土井 敦 (京大大学生態学研究センター)

Atsushi Doi (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第129回 生態研セミナー

2000年11月17日

「琵琶湖における沈降粒子に関する地球化学的研究」

"A geochemical study on the settling particles in Lake Biwa"

杉山雅人 (京都大学総合人間学部自然環境学科)

Masahito Sugiyama (Faculty of Integrated Human Studies, Kyoto University)

「琵琶湖の底生動物の現存量と食性」

"Biomass and role in the food web of macrobenthos of Lake Biwa"

成田哲也 (京大大学生態学研究センター)

Tetsuya Narita (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第130回 生態研セミナー

2000年12月15日

「湿原植物の栄養塩利用と根の深さの意義 - 安定同位体によるアプローチ」

"Nutrition strategies and the significance of root depth in mire plants as viewed from stable isotope"

松井 淳 (奈良教育大学生物学教室)

Kiyoshi Matsui (Biological Laboratory, Nara University of Education)

"Biogeochemical and ecological studies of dissolved nitrous oxide in several aquatic ecosystems"

Narin Boontanon (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第131回 生態研セミナー

2001年1月19日

「ハゼ科魚類クロヨシノボリのメイトサンプリング行動 ~メスはどのようにして番い相手を選ぶのか?~」

"Mate sampling behaviour in a stream goby of the genus *Rhinogobius*: how do females choose their mates? "

高橋大輔 (大阪市立大学大学院理学研究科動物社会学研究室)

Daisuke Takahashi (Laboratory of Animal Sociology, Graduate School of Science, Osaka City University)

「虫のカレンダーと光センサー：昆虫の生活史戦略とメカニズム」

"Photoperiodism and its mechanism in insects"

清水 勇 (京都大学生態学研究センター)

Isamu Shimizu (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2001年3月9日

「新・生態学研究センターへの期待」

"For the future CER"

中西正己 (京都大学生態学研究センター)

Masami Nakanishi (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「窒素同位体と40年」

"¹⁵N: My history of 40 years"

和田英太郎 (京都大学生態学研究センター)

Eitaro Wada (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「森林の管理と生物多様性」

"The effect of forest management on biodiversity"

中静 透 (京都大学生態学研究センター)

Tohru Nakashizuka (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2001年3月19日

Biodiversity and Conservation

"Diversity of termites: three thousand variations on a common theme"

David E. Bignell (School of Biological Sciences, University of London)

"Speculations from network theory on the deeper nature of biodiverse and biocomplex ecosystems"

Bernard C. Patten (Institute of Ecology, University of Georgia)

"Ecological risk estimate of toxic chemicals based on population extinction: examples of DDT to herring gull and sparrowhawk"

Yoh Iwasa (Department of Biology, Kyushu University)

"Biodiversity for biologists, mathematicians and conservationists: challenges and responses"

Jiro Kikkawa (Department of Zoology, University of Queensland)

調査船「はす」運航及び共同利用実績表（平成12年度）

延べ運航日数 75日

延べ乗船者数 312名

延べ共同利用者数（乗船者を含めず） 21名

月日	時間	用務内容	乗船者数					その他 共同利用者
			技官	教官	院生	共同利用	その他	
H.12								
4/12	10:15~	はす修理（船底クラックのため造船所へ）	2					
/14	12:00~12:50	はす修理完了 航行チェック	2					
/17	9:00~13:15	定期観測	2		1			
/18	8:35~12:15	セディメントトラップ	2			4		
/21	8:40~ ~12:55	安定同位体試料採集（プランクトン、POM） 動物プランクトン休眠卵採集（エックマン採泥器）	2		1			
/25	8:55~12:50	動物プランクトン休眠卵採集（K2サンプラー）	1	1	1			
5/10	9:00~ ~13:05	定期観測 動物プランクトン休眠卵採集（エックマン採泥器）休眠卵培養用水採水	2		1			
/15	9:05~12:40	ベントス採集	2	1				
/17	8:43~12:25	セディメントトラップ ヨコエビ採集	2			3		1
/22	9:00~13:40	ベントス採集	2	1				
/25	8:25~ ~11:10	安定同位体試料採集（プランクトン、POM） ヨコエビ飼育用湖水採水	2					1
6/6	8:55~12:35	セディメントトラップ ヨコエビ採集 DOC測定用採水	2		1	4		1
/7	9:00~ ~13:45	定期観測 動物プランクトン休眠卵採集（エックマン採泥器） 動植物プランクトン顕鏡用採水	2	1	1			
/8	8:50~13:55	光合成活性採水	2		1			1
/14	9:00~12:30	光合成活性採水	2		1			1
/21	8:50~12:30	光合成活性採水	2		1			1
/22	8:10~11:55	安定同位体試料採集（プランクトン、POM）	2					
7/4	8:45~ ~11:40	セディメントトラップ回収 ヨコエビ採集 バクテリアカウント練習用採水	2		1	3		1
/5	9:00~12:20	定期観測	2		2			
/6	8:45~ ~13:10	動物プランクトン休眠卵採集（K2サンプラー） 動植物プランクトン顕鏡用採水 ワムシ飼育用湖水採水	2	1	2			1
/13	8:45~13:50	動物プランクトン休眠卵採集（K2サンプラー）	2	1	2	1		
/19	9:45~11:40	有機物分解実験用採水	2		1			
/25	14:00~15:55	視察	2	1			3	
/26	8:15~11:20	安定同位体試料採集（プランクトン、POM）	2					
8/8	8:50~ ~11:45	定期観測（補機故障のため一時帰港） ミジンコ培養用湖水採水 動物プランクトン休眠卵培養用湖水採水	3		1	2		1
/8	12:25~14:48	溶存アルミニウム濃度上昇のメカニズム解明採水	2			2		
/9	9:15~15:00	ブルーギル捕獲（胃内容物調査）	1		7			
/10	9:00~12:30	定期観測	2		2			
/24	9:20~14:30	京大理学部湖沼実習	2	1	2	3		
/29	8:40~11:35	安定同位体試料採集（プランクトン、POM）	2					
/30	8:50~ ~14:05	光合成活性採水 動物プランクトン採集 プランクトン鉛直分布採水 ミジンコ飼育用採水	2		1			1
9/5	8:58~ ~12:40	定期観測 ミジンコ培養用湖水採水 植物プランクトンカイト用湖水採水	2		1	2		
/6	9:00~ ~13:45	光合成活性採水 動物プランクトン採集 プランクトン鉛直分布採水 バクテリア分析DNA分析採水 植物プランクトンカイト用湖水採水 植物プランクトン培養用湖水採水	2		1	1		1
/8	10:45~11:30	観測機器（SBE911+）テスト	2					
/12	8:55~ ~12:25	セディメントトラップ設置 ヨコエビネット曳き採集 栄養塩の分布調査	2		1	3		3

月日	時間	用務内容	乗船者数					その他 共同利用者
			技官	教官	院生	共同利用	その他	
9/13	9:05~ ~13:15	光合成活性採水 動物プランクトン採集 プランクトン鉛直分布採水	2	1			1	
/19	8:25~ ~11:30	安定同位体試料採集(プランクトン、POM) 植物プランクトン鉛直分布と物理化学構造(SBE25キヤ)	2				1	
/20	12:53~14:30	観測機器(SBE911+)テスト	2					
10/2	9:05~ ~13:10	定期観測 N ₂ Oガス測定用採水 ヨコエビ採集 ダフニア採集	2	1	2			
/3	9:00~10:10	セディメントトラップ ヨコエビネット曳き採集 北風で中止	1	1	3			
/5	8:45~13:35	セディメントトラップ ヨコエビネット曳き採集	1	1	4			
/19	8:55~ ~10:50	植物プランクトン培養用採水 コペ、ダフニア採集 動物プランクトン培養用採水	2	2			1	
/25	10:00~11:50	視察 植物プランクトン顕鏡用採水	2	1	1		1	
/28	8:25~10:55	安定同位体試料採集(プランクトン、POM)	2					
/31	8:55~12:30	ベントス採集	2	1				
11/6	8:50~12:05	溶存態DNA・P分析用採水 アクアトロン培養用採水	2	1			3	
/7	8:45~ ~12:05	セディメントトラップ ヨコエビネット曳き採集 プランクトン単離・培養用採水	2	1	3		1	
/14	8:40~11:40	アミノ酸分析用採水・採泥(K2サンプラー)	2			3		
/15	9:00~12:28	定期観測	2		3			
/16	8:55~12:40	溶存アルミニウムの分布の季節変化分析用採水	2			2		
/20	12:25~13:00	アカムシユスリカ採集用採泥(エックマン採泥器)	1	1				
/22	8:20~ ~11:45	安定同位体試料採集(プランクトン、POM) ユスリカ幼虫飼育用採水	2				1	
/27	8:55~13:30	N ₂ Oガス測定用採水 安定同位体分析用採泥(K2サンプラー)	2	1	2			
/30	13:15~14:50	観測機器(SBE911+)テスト	2				1	
12/5	9:05~12:45	定期観測 DOC測定用採水	2		2		1	
/8	13:17~16:10	観測機器(SBE911+)テスト	2					
/14	8:40~12:00	セディメントトラップ	2			3		
/20	8:35~12:10	安定同位体試料採集(プランクトン、POM)	2					
/22	13:00~13:30	はすエンジンテスト航行	2				1	
H.13								
1/11	9:00~12:00	定期観測	2		2			
/18	8:40~10:05	セディメントトラップ中止	2			3		
/18	10:45~11:30	ベントス採集	2	1				
/30	8:35~12:12	安定同位体試料採集(プランクトン、POM)	2					
2/6	9:00~ ~12:45	定期観測 栄養塩(P,N,Si)分布調査	2				4	
/7	8:50~11:10	セディメントトラップ回収	2			4		
/9	8:45~11:10	溶存アルミニウムの分布の季節変化分析用採水	2			1		
/19	8:45~11:15	セディメントトラップ設置	2			4		
/22	9:35~13:30	安定同位体試料採集(プランクトン、POM) ベントス写真用採泥	2				1	
3/6	9:05~12:05	定期観測	2		2			
/9	9:45~12:00	動植物プランクトン分布環境調査	2			2		
/12	8:50~11:00	ウィルスカウント用P分析用D-DNA分析用採水	2		1			
/13	8:45~9:25	セディメントトラップ中止	2			3		
/15	9:00~11:45	ベントス採集(ドレッジ)	2	1		1		
/16	9:05~15:45	ベントス採集(ドレッジ・エックマン)	2	1		1		
/21	11:05~13:00	センター一般公開用試料採集採水(動植物プランクトン・採泥)	3				2	
/22	8:30~12:50	安定同位体試料採集(プランクトン、POM)	2					
/28	10:00~12:00	観測機器(SBE911+)視察	2	1				

あとがき

センター時限10年の最後の「業績目録」です。紆余曲折もありましたが、みなさまのご協力で何とか刊行を続けることができました。あらためてお礼を申し上げます。今年度の業績目録の刊行も、例年に引き続き、青木和枝さんのお世話になりました。ありがとうございました。

協力研究員のうち、27名の方にご自身が載せるべきだと判断された著作目録をお寄せいただきました。ご協力、ありがとうございました。

(編集担当：湯本貴和)